

⑥開催案内チラシ

環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）主催
地域循環共生圏セミナー in 中部

地域循環共生圏づくりと地域課題の同時解決から ローカルSDGsを考える

2022年1月19日（水）13:30～16:30 オンライン開催

参加申込方法 参加無料／事前申込制

申込フォーム <https://forms.gle/9re2PruQKWWguKFJA> ⇒

※開催日の前日、申込された方へzoomの参加URL等を
メールでお送りします。



WEB epo-chubu.jp
<https://www.epo-chubu.jp>

@EPOchubu

プログラム

第1部 講演・情報提供 参加方法：zoom ※申込フォームから第1部のみの参加申込も可能になっています。

■はじめに（ご挨拶）「地域循環共生圏について」

環境省中部地方環境事務所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏

■基調講演「SDGsを地域づくりに生かすマトリックスからの脱却をめざして」

日本福祉大学特任教授 千頭 聡 氏

■情報提供「ローカルSDGsと同時解決（環境省の関連事業の事例紹介など）」

中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）

第2部 オンライン・ワークショップ

参加方法：zoomとオンライン・ホワイトボード「Googleジャムボード」（定員15名・先着順）

※第2部へのご参加は、当日にzoom参加される際の使用端末（PC等）で、「Googleジャムボード」を操作できることが
参加条件となります。（Webや参加申込フォームに記載のテストURLで、操作できるか否かをお試しいただけます。）

※第1部の参加者は、そのままzoomでワークショップの様子を傍聴いただくこともできます。

■ワーキングのテーマ

「ローカルSDGsに取り組むうえでの“課題感”の共有ディスカッション」

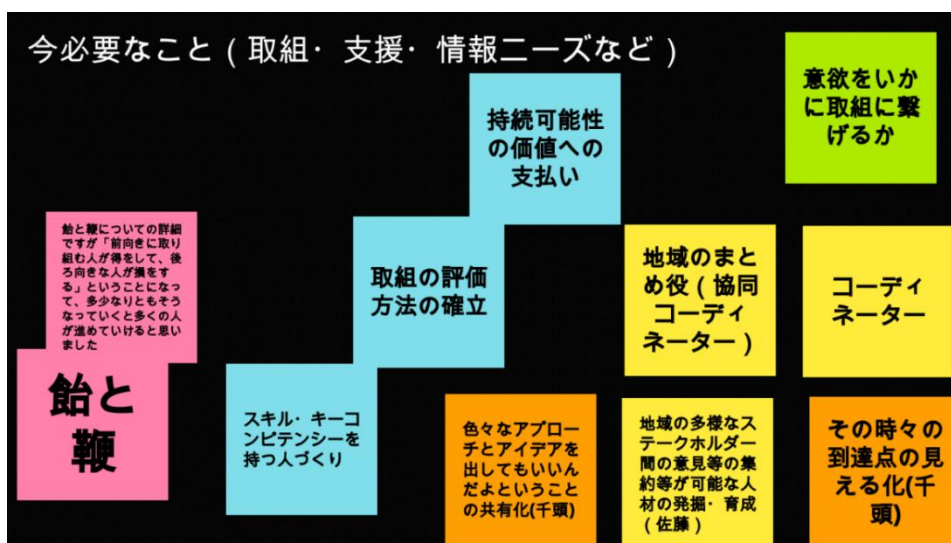
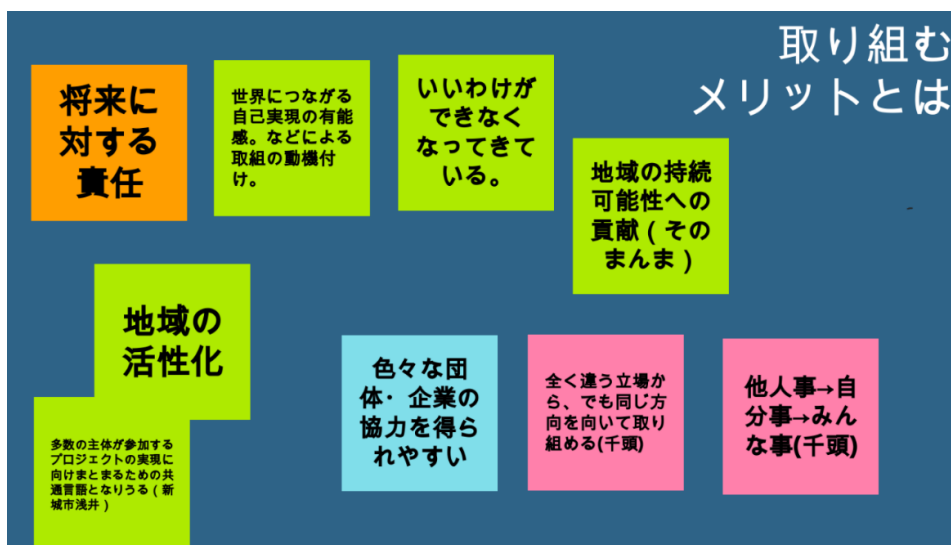
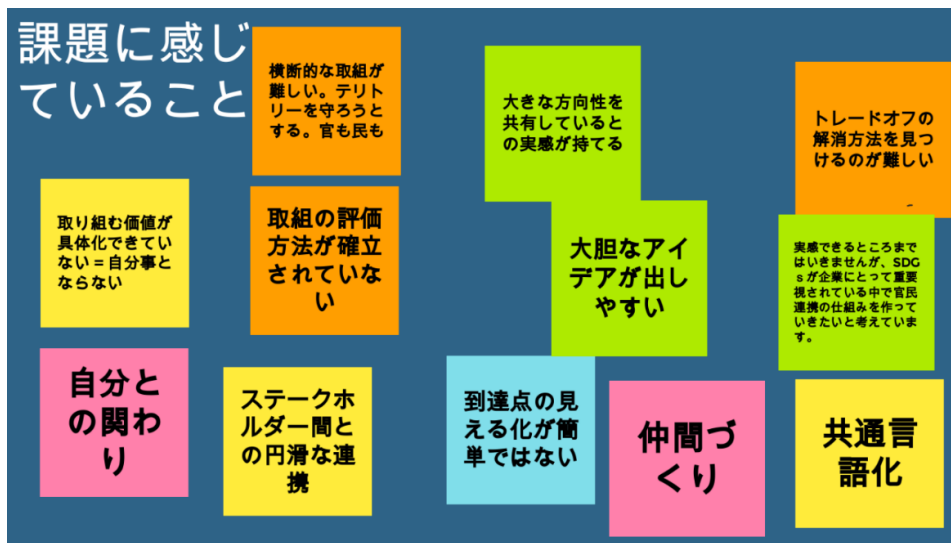
ファシリテーター：EPO中部

■講評《基調講演講師》千頭 聡 氏（日本福祉大学特任教授）



⑦使用したオンラインホワイトボード

テーマ：ローカル SDGs に取り組むうえでの“課題感”抽出・共有



5 中部地方 ESD 活動支援センター—運営業務

(1) 中部 ESD センターの運営・推進（ワークブック作成）

- 本章「(6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供」の実施内容をもとに、「(仮) 中部版 ESD ワークブック～学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」(プロトタイプ版)として、『現場から学ぶ! SDGs 人材育成ワークブック』を作成した。
- ワークブックの構成・内容等については、後述の SDGs 社会教育研究ワーキングにおいて検討を行った。

環境省 ESD推進ネットワーク 令和3年度学びあいプロジェクト
令和3年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務

プロトタイプ版 (案)

現場から学ぶ! SDGs人材育成ワークブック
企業研修/生涯学習/地域づくり
SDGs社会教育・学び合いヒント

中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会

SDGs社会教育研究会WG
古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長
水上和子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオモスモス研究所代表
増 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォーム(PECC)やま 事務局長
原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGセンター研究員 (非常勤)

はじめに

環境省の事業であるESD推進ネットワークでは、様々な分野でのESD推進を支援しています。全国8つの地方センターのうち中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開してきました。このワークブック(プロトタイプ版)は令和3年度の地方センターそれぞれが特徴のあるテーマに沿って活動する「学びあいプロジェクト」の1年目の活動成果をとりまとめたものです。中部テーマは「社会へのESDの実装」としており、ローカルSDGsを担う人材づくりをESD社会教育と呼び、その特長を戦略的に検討することを試みました。

プロジェクトではSDGs社会教育研究会WGによる3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などの活動を経て検討を進めてきました。これらの結果を元にして社会ESDの現場でヒトとなるよう、特組みを作成したのが本書です。企業研修/生涯学習/地域づくり等の現場で、何か一つでも皆様のお役に立つ内容があれば幸いです。

様々な検討にあたり現場の関係者やその他支援をいただいた皆様をはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆様に感謝します。特に東京都市大学の佐藤良久先生には、学術的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2022年3月環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会WG

地域に根ざした多様な人材育成

2021年12月11日
全国ESD推進フォーラムの第3分科会によるプロジェクトの位置づけ

「人々の行動変容をいかに地域で起こすか」
ESDを仕掛ける人たちの学び合い

分科会の目的

- ローカルSDGs達成のため
- 実践者
- ESD拠点
- 行政、企業も巻き込みたい

地方センタープロジェクトの紹介とディスカッション

- 職前・実践研究: 中部ESDC事例
- 職後・実践研究: 関西ESDC事例
- 自治体・プラットフォーム実践: 西園ESDC事例

SDGs社会教育研究会WG
古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長
水上和子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオモスモス研究所代表
増 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォーム(PECC)やま 事務局長
原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGセンター研究員 (非常勤)

現場から学ぶ! SDGs人材育成ワークブック 目次

はじめに

1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか
3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①
4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
5. 実践効果をどう考えるか

1. 「SDGs社会教育」が必要なわけ

2021年5月に策定された「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画(第2期ESD国内実施計画)では「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方が初めて明確化されました。

実際に計画の中では、「第1章総論、2.本計画の位置づけと実施体制において」、「我が国のSDGsに関する方針を踏まえつつ、持続可能な社会の創り手の育成を効果的に推進することが求められる」とされています。

また「第2章具体的取組、1.優先行動分野における各ステークホルダーの取組」では、「(5)優先行動分野5:地域レベルでの活動の促進」として「地域においては、様々なステークホルダーが連携しながら、身近な課題を解決するための行動変容を促し、ESDを通じて地域づくりを推進していくことが求められる」とされ、ESDによるローカルSDGsの推進が期待されています。

すなわち、地域における持続可能な社会づくりのためには、ESD=人材育成が必要とされ、地域づくりにつながるとされているのです。この人材育成には学校教育はもちろんですが、社会人やその予備軍であるユースのSDGs教育が欠かせません。そういった意味で「SDGs社会教育」は重要な課題なのです。

備考:「SDGs社会教育」の意味
社会教育法では第二章で「法律で『社会教育』とは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)*をいう」と定義されています。本書ではこれを踏まえ、社会教育法が目的とする(国及び地方公共団体の任務)内容を支援し、ローカルSDGs達成に資する、企業研修/生涯学習/地域づくりなどの現場で実施される、社会におけるESDを示す用語として使います。

1. 「SDGs社会教育」が必要なわけ: 参考1-1
「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画の概要

「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化

第2期ESD国内実施計画 ～SDGs達成のための教育の推進～

第2期ESD国内実施計画

- オールジャパンで推進するESDの取組を踏まえ、世界のESDをリードしていくが、特色を有する活動は、積極的に推進し推進する。
- 次期計画では、「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するよう、取組を強化し、推進する。ESDの推進を推進する上、持続可能な社会の創り手育成。
- ESD実現のため多様なステークホルダーを巻き込むが、ESD for 2030では5つの優先行動分野(5つの優先行動分野)が取組む取組を記載(科別には以下「の通り」)。
- ① 教育の場におけるESDの推進(学校・大学・職業教育等)。
- ② 民間企業・市民社会・NGO・NPO、企業、自治体、民間企業等との連携による取組。
- ③ 国内のESDの推進(ESDの推進)。

2. ステークホルダーごとの具体的な取組を5つの優先行動分野別に整理

1. 政策の推進
2. 学習機会の充実
3. 教育の場での展開
4. ユースのエンパワーメントと行動変容
5. 地域レベルでの推進の促進

1. 「SDGs社会教育」が必要なわけ: 参考1-2
佐藤の示す背景、SDGs社会の潮流とESDの今日的意義(2021年8月26日オンラインセミナー)

現代は今までにない時代である

- ・ 大加速化の時代
- ・ 外部のないグローバル化の時代
- ・ 地球惑星の時代
- ・ 混成文化の時代
- ・ VUCA(変動、不確実、複雑、曖昧)の時代

SDGsの本質: 変容

Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development
誰一人取り残されない世界をつくる決意

我々は、すべての人々のためによりよい未来を作る決意をする。
我々は、世界を創り出すことに結びつく最初の世代になり得る。
同時に、地球を創り出すことを持つ世代にもなるかもしれない。(2030アジェンダ 50)

ESD: 個人変容と社会変容の学びの連鎖

ESDの学びにより個人変容から社会変容に連鎖する

新しい学習の柱(Learning to Transform Oursell and Society)
編纂:2019年10月 個人変容と社会変容の学びの連鎖

2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか

持続可能な社会を担う人材の育成を行うにあたっては、どんな人材が必要かを考える必要があります。つまりESDにおける学習目標が必要となります。

学習目標については、文部科学省やユネスコなどいくつか示しているものがあります。本書では広石、佐藤の著書を参考に、ユネスコが示す8つのキーコンピテンシーと、Durajappah, Anantha (2019) の示す社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence: SEI) を重要視し、以下の能力や資質をものが重要と考えました。

**ユネスコ
サステナビリティ市民として獲得すべき8つの
キーコンピテンシー**

- ①システム思考コンピテンシー
- ②予測的コンピテンシー
- ③規範的コンピテンシー
- ④方略的コンピテンシー
- ⑤協働コンピテンシー
- ⑥クリティカル (批判的) 思考コンピテンシー
- ⑦自己認識コンピテンシー
- ⑧統合された問題解決コンピテンシー

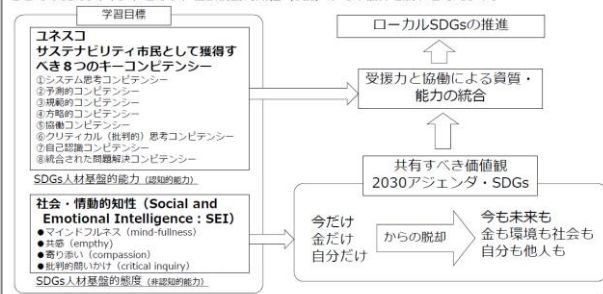
社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence: SEI)

- **マインドフルネス (mind-fulness)**
今起きている全体をありのままに受け容れる
- **共感 (empathy)**
自分と他者の文脈も踏まえた感情を共有する
- **寄り添い (compassion)**
困難な人と共に問題に向き合う
- **批判的問いかけ (critical inquiry)**
検証しながらやり取りを深める。

7

2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか

ユネスコが示す8つのキーコンピテンシーは重要な学習目標ですが、それをすべて個人が備えることはかなり難しいとも言えます。そこで重要になるのは「受援力」と「協働」です。専門的能力はもちろんながら、キーコンピテンシーに長けた多様な主体が協働することでローカルSDGs地域づくりに大きな力を発揮することができると考えます。その際、地域、企業、団体の「協働」取組には基盤となるマインドが必要で、ここではSDGsマインドと呼び、社会情動的知性 (SEI) がその根幹を成すと考えます。



8

2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか：参考2-1 文部科学省：ESDを目指すこと

文部科学省ではESDを目指すこととして、次のような要素を挙げています。

(1) 持続可能な社会づくりに必要な6つの概念の理解を通した課題認識

持続可能な社会づくりの構成概念

1. 多様性 (いろいろある)
2. 相互性 (関わりあっている)
3. 有限性 (限りがある)
4. 公平性 (一人一人大切に)
5. 連携性 (力を合わせて)
6. 責任制 (責任を持って)

持続可能な社会づくりを構成する「6つの視点」を軸にして、教員・生徒が持続可能な社会づくりに関わる課題を見出します。

(2) 持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な7つの力と態度

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力をする力
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

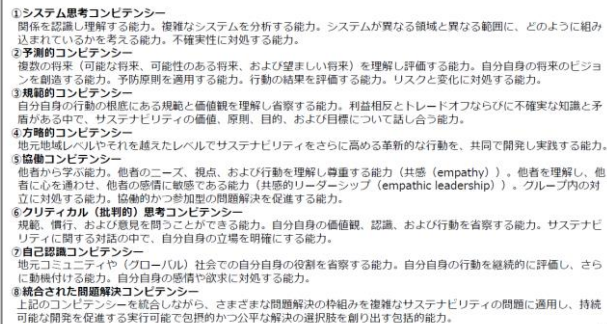
持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な「7つの能力・態度」を身につけさせます。

<https://www.mext.go.jp/unesco/0004/1339970.htm> (2021年5月17日閲覧)

9

2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか：参考2-2 持続可能な開発目標のための教育～学習目標～ ユネスコ (2020年9月)

ユネスコではサステナビリティ市民として獲得すべき8つのキーコンピテンシー (特定の文脈の中で複雑な要求に対応することが出来る力) を持続可能な開発を推進するのに重要であるとしています。



10

2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか：参考2-3 「社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence: SEI)」

広石、佐藤によれば、パラダイムシフトを進める上では、非認知的な「社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence: SEI)」が重要だとしています。

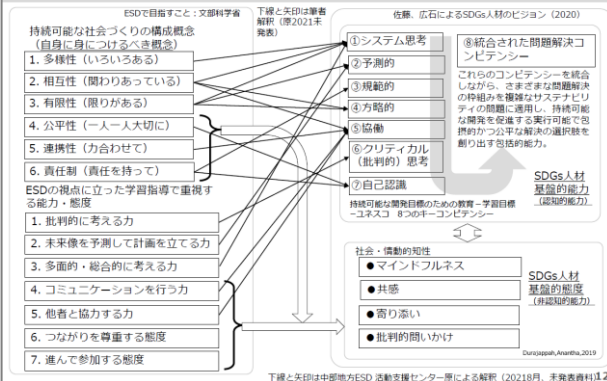
Durajappah, Anantha, 2019. 解説: 広石、佐藤 「SDGs人材からソーシャル・プロジェクトの思い手へ」 第6章 (2020年12月)

持続可能性社会へのパラダイムシフトを進めるために必要な、論理的思考や物事の進め方の限界を自覚し、感情や関係性など代表される人間特性から見た一見非合理的な知性。(表面的成果で測定しにくい非認知的な特性・能力)

- **マインドフルネス (mind-fulness)**
今起きている全体をありのままに受け容れる
- **共感 (empathy)**
自分と他者の文脈も踏まえた感情を共有する
- **寄り添い (compassion)**
困難な人と共に問題に向き合う
- **批判的問いかけ (critical inquiry)**
検証しながらやり取りを深める。

11

2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか：参考2-4 ユネスコ8つのキーコンピテンシー、社会情動的知性、文部科学省との連関



12

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①

SDGs社会教育の実践方法を考えるために、中部地方の実例を整理し、その特徴について検討しました。実践事例としてSDGs社会教育研究会WGのメンバーの報告から3つの事例を取り上げました。

大岡地区「助け合いのまちづくり」 福井県坂井市大岡地区まちづくり協議会の取組

坂井市のまちづくり協議会23箇所のコミュニティセンター (公民館) を拠点に、まち協、地域団体、地域住民、学校、事業所等が協働し、まちづくりを展開する事業の一環として実施。大岡地区のまちづくりの土台として、ワークショップ (大岡助け合いのまちづくりWS) で「まちづくりプラン」を策定、プランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ (事例：ごみ探検! ワークショップ) を実施。

SDGsトークカフェ 環境市民プラットフォームとやまの取組

光教寺SDGs OTERA cafeと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。「どんな高山だったら誰もが生きやすくなるだろう?」をテーマに、生きづらさを感じている人日々接する実践者をゲストに誰もが参加できるカジュアルなトークワークショップから成る講座を開催。

中部サステナ政策塾 中部ESD拠点協議会 (国連大学認定ESD地域拠点 (RCE)) の取組

ポリシューメーカーの志のある20～30代の若者を対象に、サステナビリティ政策を学ぶ講座を実施。ゲスト講師による講演とディスカッションなどの座学、地域でのフィールドワークを実施。講師には政治家・学識経験者、企業家・NPO関係者など、第一線で活躍するゲストを招き、年間10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えてSDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。

13


3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：参考3-1 大岡地区「助け合いのまちづくり」：福井県坂井市大岡地区まちづくり協議会の取組

連絡先	大岡地区「助け合いのまちづくり」	「ごみ探検」WSの流れ	
報告者 (対象事業との関係)	水上聡子 (企画助言、講師、ファンリ、運営)	2021WSグループワーク成果 (ダイヤモンドランキング)	
フィールドワーク活動拠点	福井県坂井市大岡地区/大岡コミュニティセンター		
主催者	坂井市、大岡まちづくり協議会、等		
対象年度	2018年度～		
ESD概要	坂井市のまちづくり協議会23箇所のコミュニティセンター (公民館) を拠点に、まち協、地域団体、地域住民、学校、事業所等が協働し、まちづくりを展開する事業の一環として実施。大岡地区のまちづくりの土台として、ワークショップ (大岡助け合いのまちづくりWS) で「まちづくりプラン」を策定、プランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ (事例：ごみ探検! ワークショップ) を実施。		
ESDプログラム内容 (事例)	事例：ごみ探検! ワークショップ (2020年度開催) の内容 ①説明後ウォーキングしながらゴミの写真を撮ってゴミを拾う ②横断紙にゴミの種類を書き出す ③グループ発表 ④大岡の未来に向けてディスカッション		


14

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：参考3-2
SDGsトークカフェ環境市民プラットフォームとやまの取組

活動名	SDGsトークカフェ
報告者(対談事業との関係)	明秀大(主催、企画・運営、コーディネーター、ファシリテーター)
フィールド	高山駅/光教寺(南砺市)
活動拠点	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)
主催者	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま
対象年度	2021年度
ESD概要	光教寺SDGs OTERA caféと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。「どんな高山だったら誰か生きやすくなるだろう?」をテーマに、生きやすさを感じている人日々接する実践者をゲストに誰もが参加できるカジュアルなトークワークショップから講座を開催。
ESDプログラム内容(事例)	プログラム 第1回: 不登校/引きこもりでも生きやすい高山って?? 第2回: 生きものも生きやすい高山って?? 第3回: 一人親家庭でも生きやすい高山って?? 第4回: 障害者でも生きやすい高山って?? 第5回: 外国人でも生きやすい高山って?? 第6回: 性的マイノリティでも生きやすい高山って??



〇〇でも生きやすい
これからの高山をみんな考えてみました。



3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：参考3-3
中部サステナ政策塾：中部ESD拠点協議会(国連大学認定ESD地域拠点(RCE))の取組

活動名	中部サステナ政策塾
報告者(対談事業との関係)	古澤礼太(主催、企画・運営、コーディネーター、ファシリテーター)
フィールド	伊勢湾流域/中部大学、名古屋市内公共施設会議室
活動拠点	中部大学認定「中部ESD拠点協議会」(RCE中部)(幹事機関: 中部大学)
主催者	2016年度～
対象年度	2016年度～
ESD概要	ポリシューメーカーの志のある20～30代の若者を対象に、サステナビリティ政策を学ぶ講座を実施。ゲスト講師による講演とディスカッションなどの座学。地域でのフィールドワークを実施。講師には政治家・学識経験者・企業家・NPO関係者など、第一線で活躍するゲストを起用。年10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えSDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。
ESDプログラム内容(事例)	事例: 2021年度プログラム 第1回: 講座・WS/SDGsの構造とSDGsプロジェクトの意義 第2～4回: SDGsプロジェクト立上げ、SDGsターゲット検討、プロジェクトWS 第5回: 中間イベント・発表 第6回: フィールドワーク豊川流域 第7～8回: 講座・WS/ローカルSDGsネットワークの発展、SDGsプロジェクトの可視化と連携 第9回: 相互評価 第10回: SDGsフォーラム2022 参加

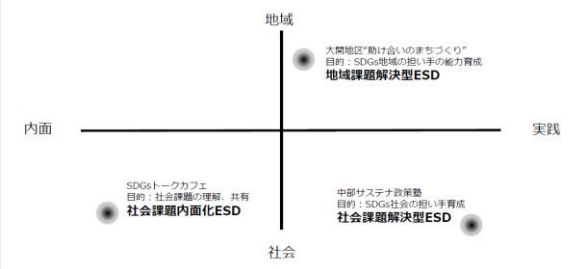


「中部サステナ政策塾」の取組
● 20～30代の若者(政治家、学識経験者、企業家、NPO関係者、企業家など) 20～30人が集い、協働活動に取り組む

多様性の中の「調和/相互理解」を模索
● 講師: 多様な分野の専門家
● 参加者: 多様な関心を持った若者
● 参加者: 多様な関心を持った若者
● 参加者: 多様な関心を持った若者

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①

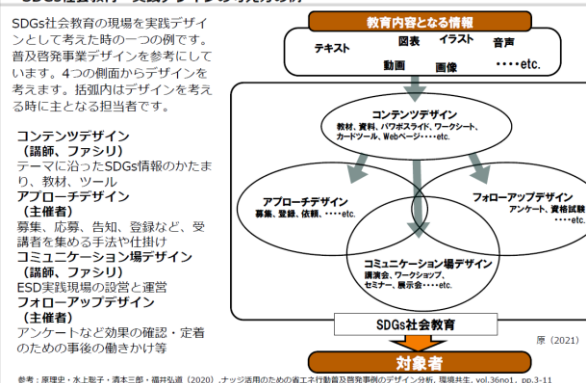
ねらいや目的によって事業やプログラムの実践デザインを考えることが重要!
報告された3つの事例を、その目的や学習目標、プログラムの特徴などについて分析した結果、ESDの目的によって、プログラムや手法に特徴があることがわかりました。すなわち、SDGs社会教育実践のねらいや目的によってプログラムや手法について適切なデザインをすることが必要です。また、実践のためのデザインを行う場合、普及啓発事業デザインを参考にコンテンツ、アプローチ、コミュニケーション場、フォローアップの4つの側面から検討すると考えやすくなります。



3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：参考3-4
事例分析の結果

活動名	大泉地区「助け合いのまちづくり」	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
参加者の属性(対象)	地域住民(地域限定)、各種団体(行政、住民組織、市民団体他)	地域住民など、関心のある市民(現地、オンライン参加)、テーマに沿った当事者(現地参加)	ユース世代(39歳以下)、意欲のある個人、企業や行政からの派遣
目的	SDGs地域の担い手の能力育成	社会課題の理解、共有	SDGs社会の担い手育成
目標	まちづくりプラン策定、及びその実現のための意識向上と、行動変容のための、できること見つけ	課題の見える化、自分事化	広い意味でのSDGs社会のポリシューメーカーを育成、及び仕組みづくり
プログラムの特徴	フィールドワークと室内ワークショップの組み合わせ	気楽な対話形式とグラフィックファシリテーターによる絵画的即時フィードバック	講演、ワークショップ、現場視察の組み合わせ。具体的なSDGsプロジェクトの企画立案と実践
場所の特徴	対象地域の現場、公民館(コミュニティセンター)	SDGs取組に理解あるお寺、オンライン	会議室、オンライン、プロジェクト現場
狙いとしたSDGs人材の資質	エクスコ3つの中核コンピテンシーの内、特に、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑦自己認識コンピテンシー	社会、情動的知性の内、特に、●マインドフルネス(mindfulness)、●共感(empathy)、●寄り添い(compassion)	ユース8つの中核コンピテンシーの内、特に、①システム思考コンピテンシー、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑥クリティカル(批判的)思考コンピテンシー、⑧統合された問題解決コンピテンシー
ESD分類	地域課題解決型ESD	社会課題内部化ESD	社会課題解決型ESD

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：参考3-5
SDGs社会教育・実践デザインの考え方の例



4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

SDGs社会教育を実施する仕掛け側はどんな人が考えられるでしょう。またどんなニーズで実施することが考えられるでしょう。例えば、SDGsに取組む企業は従業員に対して、ローカルSDGsを目指す自治体の担当者は行政職員や市民に対して、自治会の会長はその地域の住民に対して、大学は学生に対して、実施したいと考えるでしょう。ニーズを最も感じている主体それぞれが主催者になってSDGs社会教育を実践することになります。

誰が「SDGs社会教育」を行うのか、行いたいのか、行うべきか

主催者とニーズの例

- ・ 良き企業市民を目指す経営者、担当者
自分の企業の従業員に企業のSDGs取組を担ってもらいたい。SDGs取組を認められたい。優良企業として経営を持続させていきたい。
- ・ ローカルSDGsを目指す地方自治体の担当者
自治体職員に理解してもらいSDGs取組を担ってもらいたい。一般市民にSDGs取組を普及したい。SDGs 未来都市を具体化したい。地域連携共生圏構築を目指したい。
- ・ 地元に関心のある自治会の会長、ふるさと会の長者
地元に関心を持って自治会を育てたい。地域活動に協力してもらいたい。持続可能なふるさとにしたい。
- ・ 高等教育現場(大学、高校など)社会に人材を送り出す立場
今後、急速に変化する世の中に適応する人材を育てたい。地域に貢献し世の中を渡っていく人材を育てたい。SDGs社会に対応できる人材として送り出したい。

4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

実践体制を構築するためには様々な人的、物的資源を組み合わせることが必要です。目的にあった実践方法を選択するとともに、それに適した資源を適切に組み合わせなければなりません。例えば、ある手法に対して場所や形態?人材?をどうするか考えなくてはなりません。

場所・形態?

- 講座・教室(自治体)
- 自宅学習
- 講座・教室(民間)
- サークル
- 職場の教育・研修
- 講義・講演
- ワークショップ
- 見学・視察
- 体験
- フォーラム・発表視聴
- プレゼンテーション
- 議論・討論
- 試験・レポート、論文執筆

人材?

社会教育における専門職員

- 社会教育主事
- 公民館主事
- 司書
- 学芸員
- 社会教育指導員

参考: 財団法人 国土交通省 広域圏圏域生活学習センター 資料
https://www.pref.niigata.lg.jp/shika/ded/attachment/123668.pdf

すると様々な制約条件が出てきます。人材や資金は最も限られたものです。どうすれば克服できるのでしょうか。

人材: 専門家、指導者(講師、ファシリ)、運営者、企画者...
もの: 会場、音響設備、実験道具...
資金: 寄付、会費、補助、クラウドファンディング...

4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

実践体制実現のポイント? 「協働」と「資金」をいかにつくるかが重要!
報告された3つの事例を、実践体制実現のポイントという観点から、「ひと」、「もの」、「金」をキーワードとして分析しました。

その結果、「ひと」は人脈やネットワークが、「もの」はそれに付随した特徴ある開催場所が、そして「こと」はイベント相乗効果や情報発信、あるいは「ひと」ネットワーク活用のためのコツであることが見て取れます。これらはすべて「協働」のノウハウであるとも言えます。

一方、そのコストを賄う方法が欠かれません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。そのためには十分な説明を権限者に行う必要があります。また企業の依頼も考えられ、SDGs取組ニーズを満たすためのコミュニケーションもこれが必要となるでしょう。

活動名	大泉地区「助け合いのまちづくり」	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
実施主体の分類	まちづくり協議会	SDGs活動の中間支援団体	ESD活動団体
実現のポイント	こと 声をかける、顔を立てる(話を通す)	ひと デザイナーによる各種デザイン(グラフィック)、メディアへのプレスリリース	もの 高専教育機関との連携、人脈ネットワーク【大学人材の活用】
ひと	まちづくり協議会や各種団体のネットワークなど【既存の団体】	お寺、仏壇の前で(本心が出やすい)	大学キャンパス、オンライン機材
もの	基礎自治体予算から支出される、まちづくり協議会の予算	助成金、行政からのSDGs事業委託、企業員(SDGs取組ニーズ)	助成金(申請書をつましく書く)、アイデアが重要、自治体関係の関心

4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

さらに効果的に！参加者の本音に迫る学びあいを「協働」で構築する。
SDGsマインドを醸成するには、参加者自身が自分を深く見つめなおすことが重要です。そのためには「協働」が重要な要素になります。「協働」でSDGs社会教育をデザインすることは地域づくりにとって有効と考えられます。
主催者などが関係者と「仕掛ける側」として協働するだけでなく、参加側との協働、参加者同士の協働が学びあひとして実現するような工夫が必要です。例えばワークショップやフィールドワークはそうした協働の場として本音で学びあう機会となります。感染対策でやりにくいですが、終わってから飲み会や食事会は非公式ではありますが本音で語らう貴重な場と言えます。

SDGs社会教育研究会の議論より再構成 (2022年末発表)

ESDにおける協働の意義は「学び合い」にある
協働における「学び合い」はESDを促進する

5. 実践効果をどう考えるか

SDGs社会教育の実践がどのような効果をもたらしたのか、それを把握することは事業の改善のためにも、対象者へのさらなる働きかけのためにも重要です。前述した学習目標に対する資質の向上について少なくとも自己評価のアンケート調査することが望まれます。また行動変容への動機づけが行われたかも大切な効果です。そこでユネスコ8つのキーコンピテンシー、社会・情動的知性 (SEI) に加え、内発的動機づけの三つの欲求が刺激されたかどうかを含めたアンケート項目を試作しました。海岸ゴミのワークショップの「学びあひプロジェクト実践セミナー」で試用した結果を以下に示しますので参考にしてください。

ユネスコ
サステナビリティー市民として獲得すべき8つの
キーコンピテンシー
①システム思考コンピテンシー
②予測的コンピテンシー
③規範的コンピテンシー
④方略的コンピテンシー
⑤協働コンピテンシー
⑥クリティカル (批判的) 思考コンピテンシー
⑦自己認識コンピテンシー
⑧統合された問題解決コンピテンシー

社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence: SEI)
●マインドフルネス (mind-fulness)
●今起きている全体をありのままに受け入れる
●共感 (empathy)
●自分と他者の文脈も踏まえた感情を共有する
●寄り添い (compassion)
●困難な人と共に問題に向き合う
●批判的問いかけ (critical inquiry)
●検証しながらやり取りを深める。

自己決定理論による動機づけの欲求
自律性：自分の意志で自分の行動を選択したい
有能感：自分の能力を発揮したい
関係性：人々と関係を持ちたい

5. 実践効果をどう考えるか：参考5-1 アンケート項目の例

佐藤、広石によるSDGs人材ビジョン

水上、高橋によるESDによる意識向上、行動変容の内発的動機づけ

海ごみ問題の解決には・・・	コンピテンシー	社会情動的知性	内発的動機づけ
1) 様々な要素が関わり合っていることを知ることが大切。	システム思考		有能性
2) 起こり得る様々な未来の姿を予測して取り組むことが大切。	予測		自律性
3) 自分はどのように行動したらよいか判断できることが大切。	規範的		自律性
4) 戦略的・計画的な方策を練ることが大切。	戦略的		有能性
5) 他者の立場や意見を尊重し、協力して進めることが大切。	協働的	寄り添い・共感	関係性
6) 別の考え方や方法がないか問いかけてみるのが大切。	批判的思考	批判的問いかけ	自律性
7) 自分は何ができるか、「役割」を考えることが大切。	自己認識		有能性
8) 関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えることが大切。	統合的問題解決		有能性
9) 考える時に、自分の感覚や気持ちを意識することが大切。		マインドフルネス	自律性

SDGs社会教育効果測定項目例 (原、水上、高橋、2021年末発表)

5. 実践効果をどう考えるか：参考5-2 実践セミナーにおけるアンケートの試用とその結果

実践セミナー「海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ」

2023年10月30日 (土) 11:00～16:30
現地視察とセミナーWS
オンラインハイブリッド開催

＜午前：現地視察＞11:00～六渡寺海岸 (富山県射水市)にて視察体験 (オンライン中継)
● 集合：10:45
● 活動：徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験 (休憩10分)

＜午後：ワークショップ＞13:30～
● はじめに 本セミナーの内容について説明
● インプット
プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識、橋本隆史・富山大学名誉教授、現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について、境 信隆：六渡寺自治会長
● グループワークショップ
六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっているか
ワークショップ結果発表と討論
コーディネーター 原 理史 中部地方ESDC
● 総論コメント
実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民 佐藤真久・東京都大教授

実践セミナーのアンケート結果

項目	平均	200	250	300	350	400	500
1) 様々な要素が関わり合っていることを知ることが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
2) 起こり得る様々な未来の姿を予測して取り組むことが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
3) 自分はどのように行動したらよいか判断できることが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
4) 戦略的・計画的な方策を練ることが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
5) 他者の立場や意見を尊重し、協力して進めることが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
6) 別の考え方や方法がないか問いかけてみるのが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
7) 自分は何ができるか、「役割」を考えることが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
8) 関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えることが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%
9) 考える時に、自分の感覚や気持ちを意識することが大切。	284	100%	100%	100%	100%	100%	100%

(2) ESD 活動支援 (第6期 ESD 推進計画の策定)

- 中部地域の「第6期 ESD 推進計画」を策定し、第1回 ESD/EPO 運営委員会に諮問して委員からの意見等をうかがったうえで確定とした。

第6期ESD推進計画の策定

第2期ESD国内実施計画を受け策定

- ①持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議 (2021年4月)：我が国における「持続可能な開発のための教育 (ESD)」に関する実施計画 (第2期 ESD 国内実施計画) (案)
- ②一般社団法人環境創造研究センター (2021年3月)：第6期EPO中部運営企画提案内容 (令和3年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務企画書)
- ③中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議 (2020年2月)：＜参考資料2＞中部地方ESD活動支援センターの活動方針についての検討 (事務局整理案)

↓

中部地方ESD活動支援センター 第6期ESD推進計画 (章立てと策定方針案)

- ・計画の位置づけ
第2期ESD国内実施計画に基づき中部ESDC第6期ESD推進活動方針を示す。
- ・課題認識
地方センターに期待される4機能に対する課題抽出を行う。
- ・重点
資料②で提案した第6期の重点を示す。
- ・推進のための戦略
資料②で示した計画提案と今年度の仕様書を踏まえ第6期の戦略を整理する。

1

中部地方ESD活動支援センター 第6期ESD推進計画（素案） -1

1. 計画の位置づけ

第2期ESD国内実施計画が策定されることを受け、中部地方ESD活動支援センターの第6期（2021年度～2023年度）のESD活動推進の方針と戦略を示す。本計画に基づき各年度において運営委員会の助言のもと、特にEPO中部が担う地域循環共生圏構築（ローカルSDGs推進）のための人づくりを支援するという観点で、中部地方におけるESD活動を推進する。

2. 課題認識 中部地方ESD活動支援センターに期待される4機能に対する実績と課題

①情報共有機能

・ESD推進ネットワーク、学術界、地球温暖化防止活動推進センターなど様々な関係者を通じた情報共有を実施してきた。全国センターと連携し、各地方センターや地域ESD拠点の他、多様なESD関係者と連携した情報共有を強化するとともに、ESDによる人材育成の重要性を普及啓発することが必要。

②ESD活動に関する各種相談対応や連携促進等の支援機能

・活動プラットフォームとして情報発信、ツール提供、相談対応の実績を積んできている。SDGsチェックリストなどESDツールやメソッド、地域ESD拠点等を通じた人材や手法等、ネットワーク資産を活かし、より地域循環共生圏構築のニーズに沿った支援を行うことが必要。

③ネットワークの形成及び学びあいの促進機能

・大学生や高校生等のユースの学びあい、自然資産を活かしたESD交流の場などを設定してきた。これらを活かし、より高度な学びあいと社会レベルの実情に沿った広範囲なネットワークの交流の場を拡充することが必要。

④人材育成機能

・①～③の他、各種講演やワークショップに積極的に人材を派遣やマッチングするなど、人材育成に貢献する支援活動に取り組んできた。これらに加えESDやローカルSDGsなどの専門家との連携をさらに深め、人材育成の枠組みと手法事例を中部地方視点で整理し発信することが必要。

2

中部地方ESD活動支援センター 第6期ESD推進計画（素案） -2

3. 活動の重点 「ローカルSDGsためのESDの社会実装」に向けて

中部ESDCは環境省EPO中部に付置されているという立ち位置から、教育機関内のフォーマル教育に対する外部からの支援はもちろん、課外学習や生涯学習等のESD推進も重視する。また指導要領の改訂により今後ESDが進展する小中学校だけでなく、それ以上の社会人（特に取り残される可能性がある中小企業）や大学生、高校生などユース世代のローカルSDGs実践の即戦力として期待される対象のESD推進を支援する。

4. 活動推進のための戦略

■中小企業のSDGs取組のためのESD促進

・第5期で作成したSDGsチェックリストを中核としたWSパッケージも活用し、社会人ESDの展開を支援する。また協働コーディネーター等によるSDGs普及促進取組や金融機関との連携によるSDGs教育の展開を支援する。

■高等教育（大学、高校）と自治体・企業のSDGs取組におけるESD交流の推進

・企業や自治体などの実社会のSDGs取組を踏まえた大学生や高校生との交流空間をESDの場として設置し、ユース世代のためのESDネットワークを構築、展開する。

■自然資産を活かした学校教育と連携した地域づくりの促進

・ユネスコエコパークのESDダイアログの実績を基盤に、ESDを通じた国立公園、ジオパーク、世界遺産などの自然資本を活用した地域づくり連携の支援を促進する。

■「（仮称）中部版ESDワークブック～学生・社会人のための地域社会SDGs実践」の作成

・取組の成果は、汎用性を持たせたコンテンツとして活用できるように分析するとともに、ツール化、パッケージ化し、「ESDワークブック」として公開、活用することを目指す。

・ワークブックには「持続可能な開発目標のための教育－学習目標－」の8つのキーコンピテンシー（複雑なニーズに応じる能力）の獲得、向上を促す内容を盛り込み、中部地方の事例に基づく様々な場面に対応するパッケージツールとなるよう検討を進める。

3

(3) ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

①日時

- 2022年 2月19日(土)
10:00~16:30

②主催

- 中部地方 ESD 活動支援センター



③開催方法

- オンライン/YouTube によるライブ配信+録画公開

④参加者

- 115名(登壇者・大学生:52名、YouTube 視聴59名※、事務局4名) ※2022年2月25日時点

⑤プログラム

○あいさつ

環境省 中部地方環境事務所

中部 ESD/EPO 運営会議座長 名古屋市立大学 伊藤先生

○趣旨・プログラム説明

中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史 氏

○第一部：話題提供「地域と若者、SDGs へのアプローチ」

- ・ 名古屋市立大学 三浦 哲司ゼミグループ
- ・ 岐阜大学 環境サークル G-amet
- ・ 松本大学 田開 寛太郎先生ゼミグループ
- ・ 中京大学 草薙 健太先生ゼミグループ
- ・ 金沢星稜大学 新広昭先生ゼミグループ
- ・ 中部大学 伊藤 佳世先生ゼミ ESD エコマネーターチーム
- ・ 日本福祉大学 千頭 聡先生ゼミグループ
- ・ 専修大学 岩尾 詠一郎先生・大崎 恒次先生ゼミグループ<招待>

○第二部：取組紹介「SDGs 未来都市の施策と取組について」

- ・ 岐阜市 企画部未来創造研究室 杉本 昭一 氏・玉木 宏明 氏
- ・ 珠洲市 能登 SDGs ラボ 高 真由美 氏
- ・ 豊田市 未来都市推進課 前田 有紀 氏・松井 大河 氏
- ・ 参考インプット：SDGs 未来都市の見える化
SDGs 指標と取組の可視化

○第三部：ディスカッション「ローカル SDGs 達成のためにすべきこと、できること！」

- ・ コメント
- ・ 学生ディスカッション
自己紹介とこれまでの報告を聞いての感想
地域での SDGs の取組みで大切だと思うこと
今後 SDGs の取組みでやっていきたいこと
- ・ 議論の共有、全体ディスカッション

○総括コメント

中部大学教授、中部高等学術研究所所長、国際 GIS センター長
福井 弘道 氏

⑥開催案内チラシ

中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

SDGs 学生サミット

2022年2月19日(土)開催



開催概要

開催日時 2022年2月19日(土)
10:00~16:30

開催方法 オンライン開催

一般参加 YouTubeライブ配信をご自由にご視聴いただけます。(申込不要)
視聴URLは後日WEBに掲載します。



ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルアースルーム

主催▶中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)

協力▶中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

プログラム(調整中)

第1部 話題提供(10:00~) 地域と若者、SDGsへのアプローチ
…SDGsの取組・活動を行っている学生グループが「若者にとってのローカルSDGsをテーマに発表を行います。

第2部 取組紹介(13:00~) SDGs未来都市の施策と取組について
…SDGs未来都市に選定されている中部地方の自治体担当者などから施策や取組をご紹介します。

第3部 ディスカッション(14:40~)
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること!

進行 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)

総括 伊藤 恭彦氏(ESD/EPO運営委員会 座長)



中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

(4) 全国センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等

ア 全国 ESD センターとの連携

(ア) 会議等への出席

- 全国 ESD センター主催会議等への出席、資料提供などを下記の通り行った。

区分	回/開催日	対応状況
企画運営委員会	第1回 6月22日	● オンライン会議を傍聴。
	第2回 2月17日	● オンライン会議を傍聴。
全国・地方連絡会	第1回 5月27日	● オンライン会議に出席。 ● 国内計画、地域 ESD 拠点アンケート等について協議。 ● 2021 年度 ESD 業務、分科会活動業務企画案資料を作成のうえ提出。
	第2回 1月26日	● オンライン会議に出席。 ● ESD 推進ネットワークの今後の方向性等について協議。 ● 2021 年度 ESD 業務、分科会活動業務企画案資料を作成のうえ提出。
全国フォーラム	12月11日 (オンライン)	● 分科会にて、学び合い①②、実践セミナーの取組結果等を発表したほか、ファンリテーターとして登壇。
その他	9月27日	● 全国センター及び地方センターによるオンライン会議に出席。
	10月7日	● 全国フォーラム(開催方法、目的、プログラム等)、識者ヒアリング、センター事例集について協議。

(イ) 後援申請対応

- 中部地方 ESD 活動支援センターの後援名義使用について、下記のイベント事務局から全国センターに申請があり、全国センターからの照会に対する確認等を行った。

申請主体	承認日	申請行事		
		名称	開催日	場所/方法
一般社団法人日本若者協議会 ※	5月10日	日本版気候若者会議	2021年5月23日 ～8月1日	オンライン
名古屋市環境局環境企画課	5月17日	なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブ まちづくりプロジェクト	2021年6月1日～ 2022年3月31日	名古屋市内
三菱アジア子ども絵日記フェスタ実行委員会 ※	5月21日	三菱アジア子ども絵日記フェスタ 2021-2022	2021年3月1日～ 2023年2月28日	全国各地
東北地方 ESD 活動支援センター ※	8月5日	東北 ESD/SDGs フォーラム 2021 みちのく SDGs in あおもり ～人づくりから広がる SDGs の力～	2021年10月17日	オンライン
信州 ESD コンソーシアム	11月4日	信州 ESD コンソーシアム 成果発表 & 交流会	2022年2月5日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11月12日	2021 年度北陸ユネスコスクール 実践交流会	2021年12月4日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11月12日	2021 年度 石川県 SDGs・ESD 児童生徒 学習活動交流会	2022年1月22日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	1月13日	2021 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム 成果報告会	2022年2月6日	オンライン

※：全ての地方センターに後援申請があった催事

イ 地域 ESD 拠点登録支援等

(ア) 拠点登録申請の支援

- 今年度、中部エリアにおいて、新たな地域 ESD 拠点登録の申請は発生しなかった（2022年3月現在、18 団体が登録）。

(イ) 地域 ESD 拠点登録団体への支援

- 拠点登録団体がイベント開催等した際に、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトで下記の通り、広報協力を行った。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載した登録団体への広報協力記事】

ESD拠点のお知らせ	
 <p>2022.02.07 ESD拠点のお知らせ オンラインセミナー「成功事例から学ぶ 中小企業におけるSDGsの可能性」を開催 開催日時：2022年3月23日（水）14：00～15：00</p>	 <p>2021.11.10 ESD拠点のお知らせ 2021年度北陸ユネスコスクール実践交流会を開催 開催日時：2021年12月4日（土）14：00～16：30 申込締切：2021年12月2日（木）</p>
 <p>2022.01.26 ESD拠点のお知らせ SDGs未来創造クラブ オンラインシンポジウム「持続可能なまちなごやの実現に向けて」を開催 開催日時：2022年2月25日（金）18：30～20：30 申込締切：2022年2月22日（火）</p>	 <p>2021.10.22 ESD拠点のお知らせ 「錦2丁目SDGs WEEKs」を開催 開催期間：2021年11月6日（土）～11月20日（土）</p>
 <p>2022.01.24 ESD拠点のお知らせ 「SDGsフォーラム2022」を開催 開催日時：2022年2月11日（金）10：00～16：00</p>	 <p>2021.10.15 ESD拠点のお知らせ 信州ESDコンソーシアム『信州ESD通信』が届きました</p>
 <p>2022.01.17 ESD拠点のお知らせ SDGsトークカフェ「地域共生社会とSDGs～誰一人取り残さない地域づくりをみんなで考える～」を開催 開催日時：2022年1月23日（日）13：00～16：00</p>	 <p>2021.08.24 ESD拠点のお知らせ 取材レポート 中部サステナ政策塾第3回講座に参加しました 開催日時：2021年8月19日（木）19：00～21：00 開催方法：オンライン（zoom）</p>
 <p>2022.01.14 ESD拠点のお知らせ ガイドツアー「リニア・鉄道館×SDGs」を開催 開催期間：2022年1月8日（土）～1月30日（日）の土曜・日曜・祝休日</p>	 <p>2021.08.03 ESD拠点のお知らせ イベント&ニュース 日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第1回ワークショップを開催 開催日時：2021年8月28日（土）10：00～17：00 申込締切：2021年8月24日（火）</p>
 <p>2022.01.06 ESD拠点のお知らせ 「SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」第3回ワークショップを開催 開催日時：2022年1月12日（水）18：00～20：00 [オンライン] 申込締切：2022年1月11日（火）</p>	 <p>2021.08.03 ESD拠点のお知らせ イベント&ニュース 「祭り」とSDGs—祭りの多面的機能をSDGsに活かす—をオンライン開催 開催日時：2021年8月6日（金）19：00～21：00（オンライン） 申込締切：2021年8月4日（水）</p>
 <p>2021.12.23 ESD拠点のお知らせ 信州ESDコンソーシアム 成果発表&交流会を開催 開催日時：2022年2月5日（土）10：00～15：00 申込締切：2022年1月14日（金） [発表・交流希望者]</p>	 <p>2021.07.15 ESD拠点のお知らせ イベント&ニュース 企業向けSDGsオンラインセミナー「SDGs実践企業から学ぶ」【7～9月】 開催日程：5/28・6/25・7/30・8/27・9/24（全5回） ※個別受講可</p>
 <p>2021.12.09 ESD拠点のお知らせ 中部サステナ政策塾 第8回講座「SDGsプロジェクトの可視化と連携」を開催 開催日時：2021年12月21日（火）19：00～20：45 申込締切：2021年12月17日（金）</p>	 <p>2021.07.15 ESD拠点のお知らせ イベント&ニュース 「なごやSDGsモバイルスタンプラリー」を開催 開催期間：2021年8月1日（日）～2021年8月31日（火）</p>
 <p>2021.11.29 ESD拠点のお知らせ 「SDGs教育（人材育成）の今後について有識者が語る」を開催 開催日時：2021年12月14日（火）15：30～17：00 募集締切：2021年12月7日（火）</p>	 <p>2021.07.15 ESD拠点のお知らせ イベント&ニュース 「なごやSDGsモバイルスタンプラリー」を開催 開催期間：2021年8月1日（日）～2021年8月31日（火）</p>
 <p>2021.11.18 ESD拠点のお知らせ 「みちになごやSDGsマルシェ」を開催 開催日時：2021年11月19日（金）17：00～20：00 ※前夜祭 2021年11月20日（土）11：00～16：00</p>	 <p>2021.07.13 ESD拠点のお知らせ 取材レポート 中部サステナ政策塾第2回講座に参加しました 開催日時：2021年7月12日（月）19：00～20：45 開催場所：ウイंकあいち</p>
 <p>2021.11.10 ESD拠点のお知らせ 企業向けSDGsオンラインセミナー「SDGs実践企業から学ぶ」を開催 開催日程：11月19日（金）、1月21日（金）、2月25日（金）</p>	 <p>2021.07.13 ESD拠点のお知らせ コンテンツ紹介 「SDGs169ターゲットカード」のサンプルをいただきました PEC富山さんがSDGs169ターゲットを広く認知してもらうために独自で制作したカードです。</p>
 <p>2021.11.10 ESD拠点のお知らせ 「2021年度 石川県SDGs・ESD児童生徒学習活動交流会」ビデオ報告及び参加者募集 開催日時：2022年1月22日（土）13：30～15：30 申込締切：2021年1月13日（木）</p>	 <p>2021.05.31 ESD拠点のお知らせ イベント&ニュース 中部サステナ政策塾（第6期、2021年度）塾生を募集 開催日程：2021年6月26日（土）～2022年2月5日（土） 応募条件：40歳未満・全講座のうち7割以上参加 申込締切：2021年6月20日（日）</p>



(5) ジオパーク等の活用（ESD ダイアログの開催）

①日時

- 2021年 11月13日（土）13：30～16：40
- 2021年 11月14日（日）8：30～14：40

②主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター
- 共催：一般社団法人立山黒部ジオパーク協会



③開催場所・方法

- 一日目・ESD ダイアログ：リアル[会場]大山研修センター、[オンライン]YouTube ライブ配信及び後日公開
- 二日目・エクスカージョン：立山黒部ジオパーク内4カ所

④参加者

- 一日目・ESD ダイアログ：45名（会場参加37名、YouTube視聴8名）
- 二日目・エクスカージョン：13名

⑤プログラム

○一日目：ESD ダイアログ

あいさつ

- 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 今堀 喜一 氏
- 環境省 中部地方環境事務所 佐藤 堅太氏

第一部：自然資本とは何か。問われる ESD 活用への展開

- 「エコパーク、ジオパーク、国立公園とは？」
環境省 中部山岳国立公園立山管理事務所 西田 樹生 氏
- 「自然資本を活用した ESD 活動とは？」
信州大学教育学部 助教授 水谷 瑞希 氏

第二部：中部地方のジオパークによる ESD 活用事例の紹介

- ・ 「副読本『なめりかわのジオパーク』～大地・川・海歴史がおりなす自然と文化」
一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 今堀 喜一 氏
滑川氏教育委員会 教育長 伊東 眞 氏
- ・ 「ジオパーク遠足と学習支援」
白山手取川ジオパーク推進協議会 新田 竜之介 氏
白山手取川ジオパーク学習支援員 脇坂 弘明 氏
- ・ 「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおける教育活動」
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 町 澄秋 氏
- ・ 「南アルプスジオパークを活用した地域を考える教育」
南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会 小澤 恵理 氏

第三部：自然資本の ESD 活用のあり方

パネルディスカッション「自然公園等における ESD 活用について」

閉会のあいさつ

- ・ 一般社団法人環境創造研究センター 福井 弘道 氏

○二日目：エクスカージョン 立山黒部ジオパークの現地体験と解説

- ・ 魚津水族館（魚津市）
- ・ 黒部市吉田科学館（黒部市）
- ・ 下立地区大理石露頭（ジオサイト）
- ・ 宇奈月麦酒館（黒部市）

魚津水族館（魚津市）「うおづ水辺の調査隊」について



黒部市吉田科学館（黒部市）「くろべ水の少年団」について



下立地区大理石露頭（ジオサイト）



⑥開催案内チラシ

富山湾から望む立山連峰
(写真提供:一般社団法人立山黒部ジオパーク協会)



自然資本を活かした人づくり・地域づくり 立山黒部ジオパークESDダイアログ2021 ～基(もとい)の学びからどんな力を養うか～

日程:2021年11月13日(土)～14日(日)
場所:立山黒部ジオパーク

主催:中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
共催:一般社団法人立山黒部ジオパーク協会



ESDは、Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)の略です。ESDは「持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育」です。ダイアログ(dialogue)は「対話・会話」です。今回は立山黒部ジオパークを会場に、中部地方のジオパークを題材として、国立公園や自然公園など自然資本を活用したESDのあり方考える「対話」を行います。

1日目 ESDダイアログ
日時:11月13日(土) 13:30～16:40
会場:大山研修センター
(富山県富山市東黒牧140-1)
YouTubeライブ配信、及び後日公開予定あり
※申込不要:EPO中部のHPで公開
<https://www.epo-chubu.jp>

2日目 エクスカーション
立山黒部ジオパークの現地体験と解説
日時:11月14日(日) 8:30～14:40
場所:立山黒部ジオパーク
【集合】大山研修センター
【解散】富山駅経由・大山研修センター

※2日目の行程(バスで移動)は裏面を参照ください。
※宿泊の手配が可能です(宿泊費は自己負担)。宿泊施設については裏面を参照ください。

プログラム(1日目)

ご挨拶 ■ 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会
■ 環境省 中部地方環境事務所

第1部 自然資本とは何か。今問われるESD活用への展開
「エコパーク、ジオパーク、国立公園とは?」
■ 西田 樹生氏(環境省 中部山岳国立公園 立山管理官事務所)
「自然資本を活用したESD活動とは?」
■ 水谷 瑞希氏(信州大学教育学部)

第2部 中部地方のジオパークによるESD活用事例の紹介
■ 立山黒部ジオパーク ■ 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
■ 白山手取川ジオパーク ■ 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク

第3部 自然資本のESD活用
「自然公園等におけるESDの展開について」

参加者募集
【参加無料】
申込締切
11月2日(火)必着

■参加申込方法■
下のQRコードの参加申込フォームからお申し込みください。
⇒中部地方ESD活動支援センター/EPO中部のHPにもリンクあり



立山黒部ジオパークESDダイアログ2021

1日目

ESDダイアログ

日時：11月13日(土) 13:30~16:40
会場：大山研修センター

プログラム YouTubeライブ配信、及び後日公開予定あり

ご挨拶

- 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会
- 環境省 中部地方環境事務所

第1部：講演

自然資本とは何か。今問われるESD活用への展開

「エコパーク、ジオパーク、国立公園とは？」

- 西田 樹生氏 (環境省 中部山岳国立公園 立山管理官事務所)

「自然資本を活用したESD活動とは？」

- 水谷 瑞希氏 (信州大学教育学部)

第2部：話題提供

中部地方のジオパークによるESD活用事例の紹介

「副読本『なめりかわのジオパーク』～大地・川・海 歴史がありなす自然と文化～」

- 今堀 喜一氏 (一般社団法人立山黒部ジオパーク協会)

- 伊東 真氏 (滑川市教育委員会 教育長)

「ジオパーク遠足と学習支援員」

- 新田 竜之介氏 (白山手取川ジオパーク推進協議会)

- 脇坂 弘明氏 (白山手取川ジオパーク 学習支援員)

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおける教育活動」

- 町 澄秋氏 (恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会)

「南アルプスジオパークを活用した地域を考える教育」

- 小澤 恵理氏 (南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会)

第3部：パネルディスカッション

自然資本のESD活用

「自然公園等におけるESDの展開について」

パネリスト：登壇者、ジオパーク関係者など

進行：中部地方ESD活動支援センター

2日目

エクスカージョン

立山黒部ジオパークの現地体験と解説

日時：11月14日(日) 8:30~14:40
場所：立山黒部ジオパーク

立山黒部ジオパークを活かした教育や保全活動などESDの実践例を体感します。

行程

★バスで移動(自家用車等の利用も可)

大山研修センター【集合】

魚津水族館(魚津市)

「うおづ水辺の調査隊」について(解説)

黒部市吉田科学館(黒部市)

「くろべ水の少年団」について(解説)

おりたて

下立地区大理石露頭(ジオサイト)(解説)

宇奈月麦酒館(黒部市) 【各自で昼食】

富山駅経由

大山研修センター【解散】

2日目エクスカージョン、または、宿泊手配を申し込んだ方へは、後日、詳細なご案内資料を送付いたします。

会場/宿泊施設：大山研修センター

〒930-1262 富山市東黒牧140-1

https://www.intec.co.jp/company/training_center/

- 富山ICより車で15分
- 上滝駅より車で10分
- 富山駅より車で35分
- 富山空港より車で15分

事務局による宿泊手配について

宿泊施設：大山研修センター

一泊二食付一人部屋：8,110円(税込)

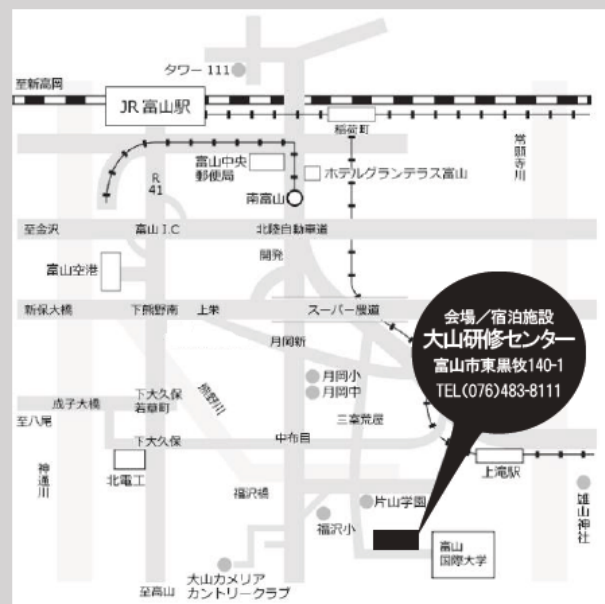
※キャンセル料：2日前より2,280円

- 宿泊申込者・2日目参加者の方へは、開催日1週間前に開催案内を送付します。届かない場合は、恐れ入りますが事務局まで連絡願います。
- 参加申込をした後で宿泊キャンセル、不参加となった場合には、必ず事務局へ連絡してください。
- 事務局による手配は予約のみとなります。チェックイン・チェックアウト、宿泊費の支払等は各自で現地にて行っていただきます。

問合せ先(主催事務局)

本催事についての問合せは、会場ではなく、下記の主催事務局へお願いいたします。なお、電話による参加申込は受け付けておりません。

中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
TEL：052-218-8605



(6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供

ア 活動計画の作成

- SDGs 社会教育研究会ワーキング、及び学び合い（全2回）、実践活動（全1回）の開催についての「活動計画」を作成し、その内容については、第1回 ESD/EPO 運営委員会への諮問と、SDGs 社会教育研究会ワーキングでの協議を行ったうえで確定とした。

中部地方 ESD 活動支援センター 分科会活動計画 210611

【テーマ】ローカル SDGs のための ESD の社会実装～SDGs 社会教育を考える

【分科会活動・公開イベント】

- SDGs 社会教育～学びあいの場の開催(2回、オンライン)

勉強会、意見交換会となる学びあいの場を設営、開催(基調講演、話題提供、ディスカッション)
話題提供者は専門家コアメンバー、中部地方 ESD 活動支援センターを想定

- 実践活動(1回、現場・オンラインのハイブリッド)

学びあいを踏まえた現場とオンライン併用の SDGs 社会教育～実践セミナーの開催
PEC とやまの実績とネットワークを生かして、富山市に六渡寺海岸(富山県射水市)で実施

- 全国 ESD フォーラムへの参加、報告(1回、現場での開催想定/全国センター主催)

<登壇者>

基調講演

佐藤真久 東京都市大学環境学部教授 ESD 活動支援企画運営委員会委員

学びあいの場①基調講演

テーマ案:ローカル SDGs の担い手に求められる能力とは、SDGs 社会教育の必要性

実践セミナー総括コメント

テーマ案:実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民

古澤礼太** 中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授 中部 ESD 拠点協議会事務局長:地域 ESD 拠点

学びあいの場②基調講演

テーマ案:ローカル SDGs の担い手を育成する、SDGs 社会教育実践の現場から

話題提供

水上聡子** EPO 中部運営委員アルマス・バイオコスモス研究所代表

堺 勇人** EPO 中部運営委員一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
:地域 ESD 拠点

コーディネーター

原 理史** 中部地方 ESD 活動支援センター 中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員

【研究ワーキング】(**は研究会コアメンバー、オブザーバー:中部地方環境事務所)

リアルとオンラインで3回開催する。SDGs 社会教育の体系化を検討するとともに、中部地方のローカル SDGs を担う人材育成に役立つ ESD 情報ツールパッケージとして、「(仮)中部版 ESD ワークブック～学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」(プロタイプ版)を作成する予定。分科会活動の成果を反映する。

【全体スケジュール】注:網掛けは公開イベント

イベント・研究会	期日	開催形式	内容(案)
SDGs 社会教育研究ワーキング①	7/6 午後	リアル開催(福井市):非公開	SDGs 社会教育体系とワークブックの構成、学びあいの場・実践活動開催計画
SDGs 社会教育～学びあいの場①	8/26 夜	オンライン:公開	基調講演(佐藤先生)・話題提供(水上さん)・ディスカッション
SDGs 社会教育～学びあいの場②	9/16 夜	オンライン:公開	基調講演(古澤先生)・話題提供(堺さん)・ディスカッション
SDGs 社会教育研究ワーキング②	9/30 午前	オンライン他:非公開	学びあいの場開催評価、実例整理、ワークブックコンテンツ
SDGs 社会教育～実践セミナー	10/30	リアル開催:六渡寺海岸(富山県射水市):公開	午前:現地視察 午後:ワークショップ、ディスカッション、総括コメント(佐藤先生)
全国 ESD フォーラムにて報告	12/10 ~ 12/11	(リアル開催予定:公開)	
SDGs 社会教育研究ワーキング③	12/後半	オンライン他:非公開	全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映

SDGs 社会教育～学びあいの場、実践セミナー 実施計画（案）

「ローカル SDGs のための ESD の社会実装」を目指す活動として中部地方地域内外の ESD 関係者に交流と学び合いの機会を提供する。活動は、環境省、文科省、ESD 全国センターが共催する ESD 全国フォーラムに分科会活動として実施する。

対象:全国の地域 ESD 拠点、ESD 関係者、企業 SDGs 担当者、SDGs 活動のユースや研究室、等
申込:環境省 EPO 中部内、中部地方 ESD 活動支援センター、参加無料(定員 100 名)
方法:オンライン開催を基本とし、実践活動では現地開催とのハイブリッドとする
主催:環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター
連携:中部地方 ESDC による広報の他、全国センター、各地方センターと同時広報

【8/26】SDGs 社会教育～学びあいの場①SDGs 社会の「担い手」とは

2021 年 8 月 26 日(木)18:00～19:30(計 90 分)オンライン開催

<プログラム>

はじめに(10 分)

基調講演「(仮)ローカル SDGs の担い手に求められる能力とは、SDGs 社会教育の必要性」(30 分)

佐藤真久 東京都市大学環境学部教授 ESD 活動支援企画運営委員会委員

話題提供「(仮)求められる担い手:福井県坂井市のまちづくり協議会の取組から考える」(20 分)

水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所代表

休憩(5 分)

パネルディスカッション・フロアディスカッション(20 分)

原 理史 中部地方 ESD 活動支援センター 中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員

とりまとめと総括(5 分)

【9/16】SDGs 社会教育～学びあいの場②「担い手」育成のための ESD とは

2021 年 8 月 26 日(木)18:00～19:30(計 90 分)オンライン開催

<プログラム>

はじめに(10 分)

基調講演「(仮)ローカル SDGs の担い手を育成する、SDGs 社会教育実践の現場から」(30 分)

古澤礼太 中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授 中部 ESD 拠点協議会事務局長

話題提供「(仮)担い手を増やすために～環境市民プラットフォームとやまの取組」(20 分)

堺 勇人 EPO 中部運営委員一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長

休憩(5 分)

パネルディスカッション・フロアディスカッション(20 分)

原 理史 中部地方 ESD 活動支援センター 中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員

とりまとめと総括(5 分)

【10/30】SDGs 社会教育～実践セミナー「海岸プラごみ清掃から流域のローカル SDGs の担い手づくりへ」

2021 年 10 月 30 日(土)11:00～16:30 現地視察とセミナーWS、オンラインハイブリッド開催

<午前:現地視察>11:00～六渡寺海岸(富山県射水市)にて視察、体験(現地参加者のみ)

集合:10:45 集合場所:射水市庄西コミュニティセンター

活動:徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験(雨天の場合はコミュニティセンターで状況紹介)

昼食休憩(各自で弁当準備)

<午後:ワークショップ>13:30～ オンライン併用

はじめに 本セミナーの内容について説明(10 分)

インプット 1 プラスチックの功罪、SDGs への影響を考える(10 分)

インプット 2 現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動についての紹介(20 分)

インプット 3 六渡寺海岸への流出域(流域)とゴミに関する市民意識(30 分)

休憩(10 分)

グループワークショップ 六渡寺海岸のプラごみ問題、市民にどのように呼びかける?(40 分)

ワークショップ結果発表と討論(30 分)

コーディネーター 原 理史 中部地方 ESDC、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員

総括コメント 実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民(20 分)

コメンテーター 佐藤真久 東京都市大学環境学部教授

イ SDGs 社会教育研究ワーキング

- ESD・SDGs 社会教育に関わる専門家3名による「SDGs 社会教育研究ワーキング」を設置し、「学び合いの場」「実践活動」の実施方法・内容についての検討を行った。
- 研究会では、「学び合いの場」「実践活動」の実施結果の検証と共に、「中部版 ESD ワークブック～学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」（プロトタイプ版）についての検討も行った。

(ア) 第1回ワーキングの実施

①日時

- 2021年7月6日（火）13：30～16：30

②開催場所

- ホテル京福（福井県福井市）

③出席者

- 6名



氏名	所属
古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員
佐藤 堅太	環境省中部地方環境事務所環境対策課主査
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

④協議項目

- 自己紹介
- 趣旨説明
- 1. 自己紹介と参加者 ESD 活動内容の共有
- 2. 研究会ワーキングの議論

(イ) 第2回ワーキングの実施

①日時

- 2021年9月30日（木）13：30～16：30

②開催場所

- 庄西コミュニティセンター（富山県射水市）



③出席者

- 6名

氏名	所属
古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

※オンライン出席

佐藤 堅太	環境省中部地方環境事務所環境対策課主査
-------	---------------------

④協議項目

1. イベント「学びあい①②」の振り返り
2. ワークブックの議論
3. 実践セミナーの計画

(ウ) 第3回ワーキングの実施

①日時

- 2021年 12月16日(木) 13:30~16:30

②開催場所

- EPO 中部

③出席者

- 6名
- 専門家メンバー(敬称略)



氏名	所属
古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員
佐藤 堅太	環境省中部地方環境事務所環境対策課主査
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

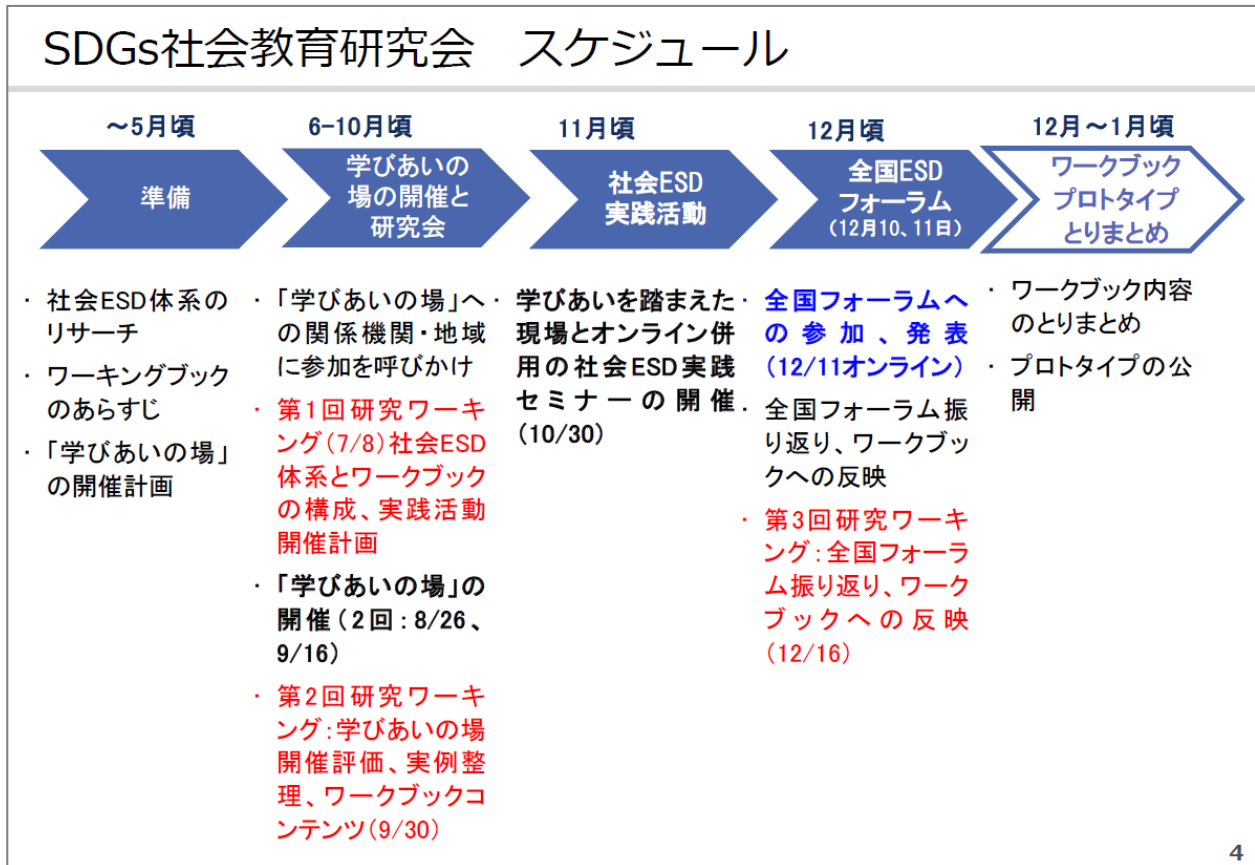
④協議項目

- 令和3年度活動の成果の検討
 - 第1回研究ワーキング
 - オンラインセミナー：学びあい1と2
 - 第2回研究ワーキング
 - 実戦セミナーの開催と分析
- 全国フォーラム第3分科会の議論を受けて
- ワークブックの議論
- 今後の方向性、次年度に向けて

ウ 交流者の参加募集

①スケジュールの作成

- 学び合い（全2回）、実践活動（全1回）のスケジュールを作成し、参加者の一般公募を7月より開始した。



4

②開催案内チラシ

- 開催案内チラシを作成し、EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトで広報を展開した。また、「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」として、全国センター、地方センターと連携して広報を展開した。

【開催案内チラシ】

中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）主催

SDGs 社会教育

ESD for 2030 学び合いプロジェクト
ローカルSDGsのためのESDの社会実装

参加無料
お気軽に
ご参加ください

学び合いの場①② & 実践セミナー

開催日程

学び合いの場①
SDGs社会の「担い手」とは
2021年8月26日（木）
18：00～19：30／オンライン

学び合いの場②
「担い手」育成のためのESDとは
2021年9月16日（木）
18：00～19：30／オンライン

実践セミナー
「海岸プラごみ清掃から流域の
ローカルSDGsの担い手づくりへ」
2021年10月30日（土）
11：00～16：30／**現地参加またはライブ配信視聴**

地域や企業などでローカルSDGsを推進するためには、その担い手が必要です。すでに活躍している社会人、これから社会に出る学生、こうした方が豊かなSDGs教育（ESD*）の機会を持つことが求められます。そこで、社会教育の面からSDGsの教育を考える「学び合いの場」と「実践セミナー」を開催します。高等教育の先生方、職場教育の担当の方、生涯学習の企画担当の方、もちろん一般で興味のある方も。ぜひご参加ください。参加費無料！

*ESD = Education for Sustainable Development

申込方法

- ▷ 参加申込フォームからお申し込みください。
- ▷ 8/26, 9/16のzoomの参加URLは、開催前日にお送りします。
- ▷ 定員を超過した場合は先着順とし、落選者へのみ連絡いたします。

問合せ
中部地方ESD活動支援センター（環境省 EPO中部）
TEL：052-218-8605



▲申込フォーム

「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」について
全国8カ所の地方ESDセンターによりプロジェクトを展開します。
詳細はESD活動支援センター <https://esdcenter.jp/> のwebページをご覧ください！



中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

詳細は裏面へ

エ 学び合いの実施

(ア) 学び合いの場①の開催

①日時

- 2021年 8月26日(木) 18:00~19:30

②開催場所

- オンライン

③参加者者

- 65名(事務局4、登壇・関係者5含む)

④プログラム

○はじめに

環境省 中部地方環境事務所 佐藤 堅太

○ローカルSDGsの担い手に求められる資質・能力、知性とは
-持続可能な社会に向けて、好循環を生み出す人のあり方、学び方、働き方-
東京都市大学大学院 環境情報学研究科教授 佐藤 真久 氏

○求められる担い手

福井県坂井市のまちづくりの取組から考える

アルマス・バイオコスモス研究所 水上 聡子 氏

○パネルディスカッション・フロアディスカッション
進行 原理史(中部地方ESD活動支援センター)



(イ) 学び合いの場②の開催

①日時

- 2021年9月16日(木) 18:00~19:30

②開催場所

- オンライン

③出席者

- 38名(事務局4、登壇・関係者4含む)

④プログラム

○基調講演「ローカルSDGsの担い手を育成する、SDGs社会教育実践の現場から」

古澤礼太(中部大学国際ESD・SDGsセンター 准教授)

○話題提供「担い手を増やすために～環境市民プラットフォームとやまの取組」

堺 勇人(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 事務局長)

○パネルディスカッション&フロアディスカッション
進行 原理史(中部地方ESD活動支援センター)



オ 実践活動（実践セミナー）の開催

①日時

- 2021年 10月30日（土）11:00～16:30

②開催場所

- 午前の部：六渡寺海岸（射水市庄西コミュニティーセンター集合）
- 午後の部：JFE マテリアル株式会社ふれあい体育館

※ 午前午後とも YouTube でライブ配信

③参加者

- 会場 23名（事務局 4、登壇・関係者 4含む）、オンライン 45名 計 68名

④プログラム

○午前の部：六渡寺海岸視察&ごみ拾い体験

○午後の部：セミナー&ワークショップ

あいさつ

環境省 中部地方環境事務所 佐藤 堅太氏

「プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識」

富山県立大学名誉教授 楠井 隆史氏

「現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について」

六渡自治会顧問 境 信誓氏

「六渡寺海岸のプラごみからSDGsを考える」

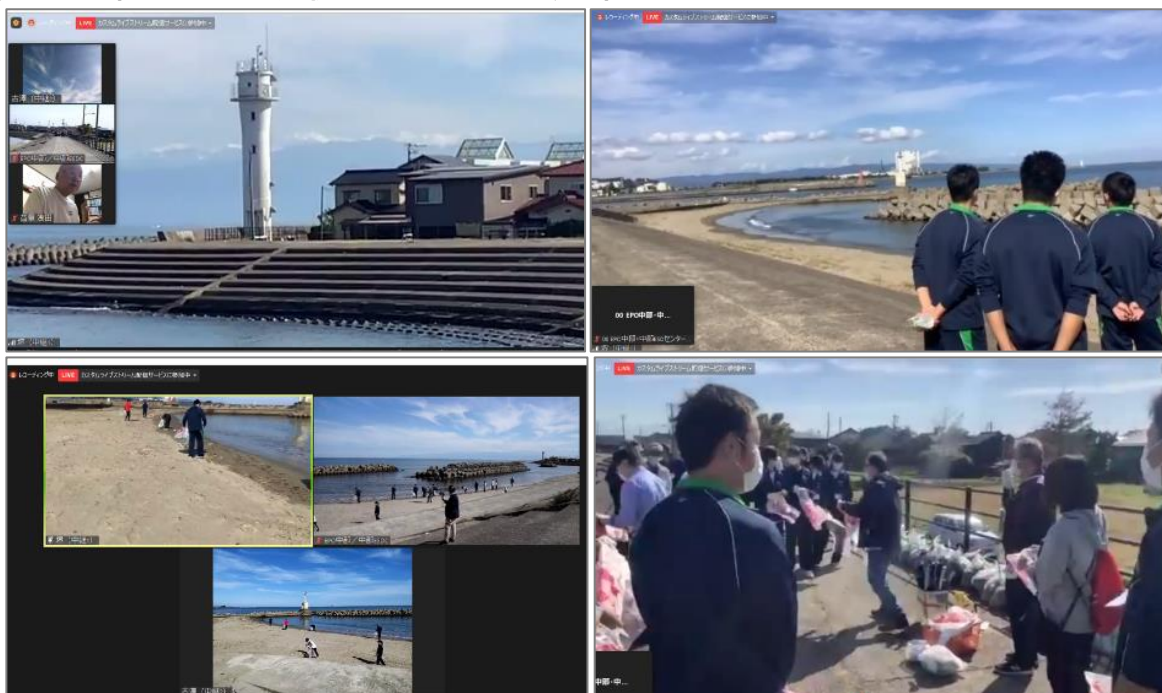
ファシリテーター：アルマス・バイオコスモス研究所代表 水上 聡子氏

コーディネーター：中部地方ESD活動支援センター 原理史氏

「実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民」

東京都市大学大学院環境情報学研究科教授 佐藤 真久氏

⑤午前の部：六渡寺海岸視察&ごみ拾い体験の様子



⑥午後の部：セミナー&ワークショップの様子



カ 報告（全国フォーラムでの活動結果報告）

- 12月11日オンライン開催の全国フォーラムで「学び合いの場①②」「実践セミナー」の実施結果の報告を行った。

【企画協力及び登壇した分科会】

分科会③地域に根差した多様な SDGs 人材育成(13:30～15:30)

事例報告	伊藤 博隆さん(関東地方 ESD 活動支援センター)
事例報告	原 理史さん(中部地方 ESD 活動支援センター)
事例報告	宇賀神 幸恵さん(四国地方 ESD 活動支援センター)
パネリスト	水上 聡子さん(アルマス・バイオコスモス研究所)



(7) 教育現場の実態把握と連携強化

ア 専門家への包括ヒアリング

(ア) ヒアリングを実施した専門家

古澤礼太

中部大学中部高等学術研究所国際ESD/SDGsセンター 准教授／国連大学認定RCE「中部ESD拠点協議会」(ESD推進ネットワーク 地域ESD拠点登録) 事務局長

(イ) ヒアリングの実施概要

①日時、場所

- 場所：中部大学中部高等学術研究所
- 日時：2021年4月13日 15:00～16:30

②ヒアリング項目

- ① 専門領域における現在のESD/SDGsの取組について
- ② ESD2030と「実施計画（第2期ESD国内実施計画）（案）」についてのお考え
- ③ ESD全般についての現状の課題についてのお考え
- ④ 今後のESD推進に向けて重視していることとその展望

(ウ) ヒアリング結果

①専門領域における現在のESD/SDGsの取組について

- ヒアリング対象の専門家（以下、専門家）は中部地域におけるESDのネットワーク活動として、中部ESD拠点協議会における諸活動に従事している。近年では、ESDは知名度の低さがネックとなる場合があり、これと比較して広く社会に受け入れられつつあるSDGsを活用し、地域の持続可能な発展に関わる活動およびネットワークの拡充を図る傾向が社会で見られ、本協議会もそのような取組を行っている。
- 具体的な活動としては、①中部サステナ政策塾、②中部SDGsデザイン会議、③両者の協働によるSDGsプロジェクトの創出、などについて取組が進められている。

【中部サステナ政策塾活動】

- 2020年度で第5期を迎えた中部サステナ政策塾は、毎年30名程度の若者（20～30歳代）を募集し、分野横断型の塾生間交流を通して、持続可能な地域づくりに関する政策を学び、実行するための知識が技術を身に着ける講座を開講している。

【中部SDGsデザイン会議活動】

- 東海三県におけるSDGsの有識者ネットワークとしてメンバーを募集中である（正式発足時期は未定）。17ゴールそれぞれに100人委員会を設置し、メーリングリストや対面による情報交換を行うこととしている。将来的には100名×17＝1700名のネットワークとなる予定である。

【SDGsプロジェクトの創出】

- 2020年度には、中部サステナ政策塾塾生と中部SDGsデザイン会議メンバーが協働し、「ポストコロナ時代の持続可能な社会づくりプロジェクト」と題して、ワークショップ等を通じて6プロジェクトを立ち上げた。各プロジェクトは以下のとおりである。
 - a. 多文化共生プロジェクト
 - b. エネルギープロジェクト
 - c. パートナシッププロジェクト
 - d. 環境プロジェクト
 - e. まちづくりプロジェクト
 - f. 農業プロジェクト
- 大学の取組としては、SDGs指標を使った地域における諸活動の評価や助言を目的としたSDGs推進手法の開発を行っている。また、国際的な大学ランキング（THEインパクトランキング）にもSDGsが取り入れられたものもあり、ランキングの登録をおこなうための調査を実施している。これにより、国際的に共有されている大学におけるSDGs評価項目の知見を得ている。今後は、評価項目を大学教職員間で共有することによって具体的に大学のSDGs活動を促進することとしている。

②ESD2030と「実施計画（第2期ESD国内実施計画）（案）」についてのお考え

- 国内実施計画は、これまでのESD推進の経緯が整理され、それらを踏まえた行動計画として概ね適切な内容になっているが、下記の課題が残されているとのことであった。
- ESDの「あいち・なごや宣言」の成果への対応が不足しているのではないか。国内実施計

画では、数か所に渡って「我が国がESDを提唱」との記載があるが、一つの重要な成果としての「あいち・なごや宣言」に関する記載が無い（防災世界会議の「仙台宣言」などは国内公文書の随所に引用されている）。

- あいち・なごや宣言では、文化の多様性に配慮し、地域の伝統的な知恵を重視したESD推進の視点などを記載した重要な宣言であり、我が国が提唱したESDのひとつの貴重な中間成果である。中部地域では、こうした国際的な宣言を根拠として、2015年以降の活動方針を決定し、実施してきた経緯がある。あいち・なごや宣言では、SDGsとESDの関連についても述べられており、その結果としてSDG4.7のターゲットにESDが明記された経緯を鑑みても、我が国の国際的貢献の証として、広く国民に「あいち・なごや宣言」の存在を知らしめる必要があると考える。なお、ユネスコが2019年に発表したGAPの成果文書にも「あいち・なごや宣言」の名称は明記されている（コスタリカで開催された成果文書取り纏め会議において記載の必要性を指摘）。
- 優先行動分野5地域レベルの活動促進の中で、地域知や伝統知に関する記述を加えるべきであると考えられる。ESDユネスコ世界会議本会議において、優先行動分野の5の「地域レベルでの活動促進」の座長を務めた中で、文化の多様性を尊重した地域レベルでのESDの必要性を議論している。「あいち・なごや宣言」にもその重要性が指摘されている（宣言パラ⑩）。地域の知恵や伝統的な知恵は、地域の持続可能性を考え、学ぶ上で不可欠な要素であり、それらを尊重する指針を実施計画に明記すべきであると考えられる。
- 本実施計画案でもっとも検討すべき点は、ユネスコの評価にもある「優先行動分野間の連携の不足」という課題に対する対応である。ユネスコが設置したGAPのパートナーネットワーク会議における優先分野5のメンバーとしての立場から見ると、優先分野間の連携の不足の原因は、優先分野に分けたことによって必然的に発生する分断に対して、ユネスコが連携を促進するための適切な方策を講じることができなかった点にあると考えられる。本実施計画案でも同様の失敗が繰り返される可能性がある。実施計画では、実施メカニズムで「分野を超えたステークホルダーの協力」体制が多く具体的にネットワーク名を挙げて強調されている一方、優先行動分野間の連携促進に関する記述は読み取れない。実施計画内にユネスコのGAP評価として明記されている当該課題について、対応策が記載されていないという点は問題であり、検討すべきである。また、現段階で具体的な解決策が無い場合は、「各ステークホルダーが、優先行動分野間の連携を促進する方法を検討する」などの記載が必要だと考えられる。

③ESD全般についての現状の課題についてのお考え

- 以下について現状の課題があるとのことであった。
- ESDはSDGsの基盤的な活動であり、かつ、SDGsのような時限的なものではない21世紀の主要な社会づくり手法である。しかし、ESDの考え方を社会に普及させる方法は多様であるため、ESDという名称にこだわった普及啓発活動を超えた方法論が必要であり、その開発が課題だと考える。（現状であれば、ESD=SDGs教育と言い換えてESD活動を進めていくべきであると考え。）
- ESDの対象分野間の分断が課題だと考える。具体的には、学校教育におけるESDと、地域づくりの担い手教育としてのESDの分断である。これは、国であれば文科省と環境省の縦割り、地域でいえば教育委員会的ESDと、NPO・大学的ESDの乖離と呼べるかもしれない。SDGs時代にはいっても、この古くて難しい問題の解決の糸口は見えない。
- 古くからあって解決できないもうひとつの問題として、個別課題対策のESDと、総合的な課題解決に向けたESDの整理および両者をつなぐ体系的なESD推進手法の構築が課題であると考え。SDGs教育としても同様であり、SDゴール〇〇番のための活動のみを行うことがSDGやESD活動であるといった風潮がある。これはESDがこれまでに重視してきた総

合性、批判能力育成、関連性などを十分に考慮した活動とはなっていないため、問題である。そのような風潮を打破する方法の検討が課題である。

④今後のESD推進に向けて重視していることとその展望

【SDGsの総合性に着目した取組】

- SDGsの17ゴールすべてを排除することなく地域の持続可能性を検証し、課題解決するためには、さまざまな地域単位でSDGs活動を展開する必要がある。中部ESD拠点では、東海地域（3県）の生態系を基盤とした地域単位としての「伊勢・三河湾流域圏」をSDGsの対象地として、ESD活動を展開している。それにより、個別分野だけでなく総合的に地域の持続可能性を思考することができる人材育成を行っている。

【SDGsの相互関連に着目したESD活動】

- 分野横断型のESD活動を実施することで、相互関連に着目したSDGs活動を展開していく。具体的には、「日本の祭りと生物多様性保全」プロジェクトを新年度から立ち上げて（トヨタ環境活動助成活動採択）、実施する。伊勢・三河湾流域圏における地域の祭りに用いられる自然素材（植物、動物、食物など）を調査し、祭り保存会や地域の子供たちとともに、それらの自然資源について学習するワークショップを実施する。これにより、まちづくり（SDGs11番）と自然環境保全（SDGs14、15番）の同時理解を目的としたESDモデルを検討する。

【SDGsの協働性に着目したESD活動】

- 中部サステナ政策塾および中部SDGsデザイン会議において、今年度は「SDGsプロジェクトの実施」をテーマに掲げ、SDGsのターゲットおよび指標をより深く学び、地域の実情に合致した活動の検討と実施を行う。

イ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング《1》

（ア）ヒアリングを実施した教育関係者

名古屋市立山田東中学校

生徒会を中心とした校内活動にSDGs学習を取り入れた中学校の担当教諭

（イ）ヒアリングの実施概要

①日時、場所

- 場所：名古屋市立山田東中学校
- 日時：2022年2月22日16:00～17:30

②ヒアリング項目

- ① 現在のESD/SDGsの取組について
- ② ESD/SDGsの取組の課題
- ③ ESD/SDGsの取組の支援
- ④ ESD/SDGsの取組の今後の期待

（ウ）ヒアリング結果

①現在のESD/SDGsの取組について

- 授業やその他校内活動などでESDやSDGsの取組についてどのようなことを行っているか？
SDGs職員研修1回
生徒会活動によるスクールランチからSDGsを考える動画づくり3回、校内放送3回

- そのきっかけや理由
SDGs 達成の担い手づくり推進事業」に採択されたこと
- 取組でどんな変化や成果があったか
動画づくりを通じて生徒会役員が SDGs の勉強になった。校内放送で全生徒が SDGs を考えるきっかけとなり、身近に感じられるようになった。
- 取組で今後期待されること
スクールランチで SDGs を考えたことをきっかけに、自ら実践が広がるとよいと考える。

②ESD/SDGs の取組の課題

- 今の ESD や SDGs の取組を継続、発展するにあたっての課題
動画活動は一定の成果があったが、それで終わるのではなく、生徒が社会に出て実践する土台を築くような活動がしたい。例えば生徒が地域の防災訓練に参加したが SDGs の一翼になっているので、地域活動を増やして SDGs の理解を増やしたい。ただし何がどう SDGs として理解するべきか気がつかないところが課題。
- それ以外の課題
取組の実践が一部の先生にとどまっているので、全体的に巻き込んでいくことが重要な課題と思われる。

③ESD/SDGs の取組の支援

- ESD や SDGs の取組を行っていくにあたってどんな支援があったらよいか
学習プログラムのような SDGs 活動や ESD パッケージがあるとよいが、先行事例を見てもピンとこない。効果が上がる活動をしたいが、目に見えにくく実感がわからないことが多いため具体的な SDGs との関連性についての確信を持ちたい。
今回取り上げたスクールランチのテーマは具体性があったのでわかりやすかったのも、わかりやすいストーリーやパッケージがあることが重要。教育界全体の経験値が足りないかもしれないので担当教員が独善的になる恐れを感じた。
そのため、専門家の指導で SDGs のストーリーについて、お墨付きや客観的判断がもらえるとうれしい。

④ESD/SDGs の取組の今後の期待

- 今後、社会的に ESD や SDGs 取組が推進されていくにあたり期待されること
SDGs の達成状況がどうなるのか知りたい。政府の発信を期待したい。そうした進展の状況は興味がない人にも発信するべきではないか。

⑤その他

- その他に ESD や SDGs 取組にご意見など
せつかくなので活動を継続させたい。

ウ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング《2》

(ア) ヒアリングを実施した教育関係者

名古屋市立楠西小学校
授業に SDGs 学習を取り入れた小学校の担当教諭

(イ) ヒアリングの実施概要

①日時、場所

- 場所：書面による聞取り
- 日時：2022年2月25日メール依頼、2月28日メール回答

②ヒアリング項目

- ① 現在の ESD/SDGs の取組について
- ② ESD/SDGs の取組の課題
- ③ ESD/SDGs の取組の支援
- ④ ESD/SDGs の取組の今後の期待

(ウ) ヒアリング結果

①現在の ESD/SDGs の取組について

- ESD の取組としては、社会科、家庭科、保健など、5年生の多くの教科を横断したテーマであったため、総合的な学習の時間で、探究学習や校内への SDGs の広報活動をしている。
- これらの取組で学習と SDGs の目標とのつながりを意識したり、日常生活と結びつけたりできるようになった。
- これらの取組で今後、様々な学習が、自分の生活に関わっていることを感じさせたい。

②ESD/SDGs の取組の課題

- 今の ESD や SDGs の取組を継続、発展するにあたって学年による内容や展開の仕方が課題と考えられる。

③ESD/SDGs の取組の支援

- ESD や SDGs の取組を行っていくにあたっては、各トピックスの内容について、詳しく話を聞く機会があるとよいと考えている。

④ESD/SDGs の取組の今後の期待

- 世界的な問題だと切り離すのではなく、身近な問題として、できることを少しずつ取り組むような姿勢が身に付くと良いと考えている。

6 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

(1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

ア プラットフォーム団体への伴走支援等

- 各プラットフォーム採択団体への伴走支援として、次の協議・検討ほか、各種会合の企画・開催支援などを行った。

実施日等	支援内容	協議事項等
4月19日	新規採択団体を対象にしたヒアリングの実施と事務局打合せを実施(オンライン) 対象:PF のと共栄信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> 事務局打合せで、PFのこれまでの取組や現状、今後の展開についての概略報告、事務局確認(役割分担、事業のスケジュール、成果物など)を確認。 事業展開ヒアリングを実施。
4月20日	継続団体との今年度初回事務局打合せを実施(オンライン) 対象:PF 郡上市地域共生圏協議会	<ul style="list-style-type: none"> 事務局体制 事業のスケジュール、成果物、PF側の取組の現状/今年度の取組・展開、意見交換会の実施方法等について確認。
6月7日	継続団体 PF 郡上との事務局打合せ(現地)	<ul style="list-style-type: none"> PF 事業の今後の方向性、及び DMO 観光連盟内設置の郡上市アウトドア事業者協議会との連携をその展望について確認。 意見交換会、勉強会の実施ニーズの確認。
6月18日	新規採択団体 PF のととの事務局打合せ(現地)	<ul style="list-style-type: none"> PF 事業の今後の方向性、スケジュール等についての確認。 意見交換会、勉強会の実施ニーズの確認。 事業進捗、自治体との連携等についての状況確認。
7月26日	継続団体 PF 郡上との事務局打合せを実施(現地)	<ul style="list-style-type: none"> アウトドアウィークイベントの進捗状況等についての確認。 意見交換会の実施方法、実施内容について協議。 PF 事業としての今後の進め方について協議。
8月26日	継続団体 PF 郡上の地域会合に資料を提示	<ul style="list-style-type: none"> アウトドアウィーク実行委員会の会議において、アウトドア事業者とPF が集まり、意見交換会実施について提案資料を EPO が作成して提示(EPO は会議に出席できなかったため、提案資料を PF に送付)。
9月21日	新規採択団体 PF のととの事務局打合せ(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換会について確認(実施方法・内容についての EPO 提案資料を提示)。 11/17 能登 SDGs 大学・第2回講義の登壇について協議。 そのほか情報交換等を実施。
10月16日	新規採択団体 PF のとの新規コンソーシアムの設立式に参加(現地)	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームとして新しく発足したコンソーシアム「なお SDGs スイッチ」の設立式・調印式に出席。 後日、設立式の様子を EPO ウェブサイト、Facebook で紹介。
10月19日	継続団体 PF 郡上との事務局打合せを実施(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> 11月10日開催の意見交換会で実施するディスカッション(ワーキング)の内容について EPO 案を提示、協議。 開催案内の原稿を EPO が作成し、後日、PF 側から正式に PF メーリスで配信。
11月6日	継続団体 PF 郡上によるイベント出展の様子を取材	<ul style="list-style-type: none"> 11月6日・7日開催の郡上市アウトドアウィークの PF 出展ブースを訪問。 後日、出展ブースの様子を EPO ウェブサイト、Facebook で紹介。
11月17日	新規採択団体 PF のとが主催する市民大学に登壇(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> なお SDGs スイッチ主催の「能登 SDGs 市民大学」第2回講義に中部地方環境事務所、及び EPO 中部が登壇し、「地域循環共生圏」についての概説、「ローカル SDGsと同時解決」について講義。
12月1日	継続団体 PF 郡上との事務局打合せを実施(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> 11月10日実施の意見交換会をうけて、EPO 主催会合での実施内容について EPO 案を提案し、協議。 その後もメール・電話連絡による打合せを実施。
12月24日	新規採択団体 PF のととの事務局打合せを実施(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> 団体による年度内の取組予定、次年度の PF 事業への申請希望等について情報共有。 本省からの指摘事項等への対応についても協議。
1月～2月	継続団体 PF 郡上とのメール、電話打合せを実施	<ul style="list-style-type: none"> 1月27日開催・EPO 主催会合の勉強会の題材、実施内容について協議。

実施日等	支援内容	協議事項等
1月～2月	新規採択団体 PF のとのメール、電話打合せを実施	<ul style="list-style-type: none"> 2月23日開催・EPO主催フォーラムの運営方法等について協議。
1月27日	継続団体 PF 郡上の関係者を対象にした勉強会を開催(オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> J-クレジットをテーマにした勉強会をワークショップ方式で開催。 活用したオンラインシートをその場でダウンロード可能なもので運営。
2月23日	新規採択団体 PF のとに協力いただき、フォーラムを開催(ハイブリッド)	<ul style="list-style-type: none"> ローカル SDGs をテーマにフォーラムを開催。 PF 関係者に新視点のローカル SDGs を提示。

イ 新規団体を対象にした事業着手時ヒアリングの実施

①実施概要

活動団体名	実施日/方法	ヒアリング項目
のと共栄信用金庫 【新規】 (石川県七尾市)	4月19日 オンライン	Q.1:本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは？ Q.2:地域循環共生圏を実現した地域の姿・イメージ(短期/長期)とは？ Q.3:今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか？ Q.4:事業を進める上での資源や強みとは？ Q.5:事業を進める上での課題とそれを解決するための方策などは？ Q.6:事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは？

②出席者

	ご所属先	お名前
PF団体	のと共栄信用金庫	鈴木理事長
	のと共栄信用金庫 ふるさと創生部	小石部長
	のと共栄信用金庫 ふるさと創生部	入口部長代理
	七尾商工会議所	山田事務局長
	七尾商工会議所	小山地方創生ディレクター
	公益社団法人 七尾青年会議所	山口理事長
	公益社団法人 七尾青年会議所	平石専務
	金沢大学 融合研究域融合研究系	松島教授
	能登DMC合同会社	友田代表
	七尾市	
環境省	環境省大臣官房 環境経済課 環境金融推進室 室長補佐	菊池 豊
	環境省中部地方環境事務所 環境対策課 課長	曾山 信雄
	環境省中部地方環境事務所 環境対策課廃棄物対策等調査官	溝手 康人
	中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部) 統括	清本 三郎
	中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部) ESD・SDGs担当	原 理史
	中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部) EPO担当	富田夏子

③ヒアリングシートの作成

- ヒアリング実施後、所定のヒアリングシート (GEOC 提示のフォーマット) に聴取内容を整理、記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。
- ヒアリングシートの作成にあわせて、各プラットフォーム団体 (継続団体も含む) の支援計画シート (いずれも GEOC 提示のフォーマット) を作成し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

【作成・提出したヒアリングシート】

令和 8 年度 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム
構築事業
＜ヒアリングシート＞
提出用

●本ヒアリングの開催目的：
①団体との信頼関係の構築（本音で意見交換できる関係性づくりを目指す）
②支援の方針を検討するための材料集め

●本ヒアリングのポイント：
①本事業の目的やゴール、進め方、ステークホルダーとの関係性の確認（民間団体の場合は自治体、行政の場合はパートナー候補の民間団体）
②今年度目標と達成するための手段の具体化（5W2Hの把握）
③共生圏を構築する上での、現状認識している課題やボトルネックの整理
④事務局・EPOによる環境整備支援のポイント抽出、具体的支援ニーズの把握

●ヒアリングシート

地方	中部	記入者・記入日	2021年4月19日
活動地域	石川県七尾市		
活動団体名	のと共生信用金庫		
活動テーマ	人口減少と地域経済縮小を克服し、まち・ひと・しごと創生と好循環を確立		
調査相手	のと共生信用金庫・人口はがの会 10名		

【PF関係者名】

のと共生信用金庫	鈴木理事長
のと共生信用金庫 ふるさと創生部	小石部長
のと共生信用金庫 ふるさと創生部	入口部長代理
七尾商工会議所	山田事務局長
七尾商工会議所	小山地方衛生ディレクター
公益社団法人 七尾青年会議所	山口理事長
公益社団法人 七尾青年会議所	平石専務
金沢大学 総合研究機構研究系	松島教授
能登 DMC 合同会社	友田代表
七尾市	立川氏

Q1 本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージはどのようなものか？

【PFの彩・メンバー】

- 既存の会合構想案「金学資金による七尾 SDGs・ESG 金融推進拠点都市エコシステムコンソーシアム」を基にして PF を設立する。メンバーもこのコンソーシアムの構成員が富んでいる。
- PF のメンバーは、本ヒアリングに同席の「のと共生信用金庫」「七尾商工会議所」「七尾青年会議所」「金沢大学」「能登 DMC 合同会社（前身為 2016PF 事業採択団体）」、「七尾市（自治体）」の 6 主体でスタートする。応募者・のと共生信用金庫が想定していた当初メンバーが既に揃った状態となっている。
- この PF/コンソーシアムでは、各メンバーが既に実施している既存の地域課題解決事業の支援プログラムを持ち寄り、活用し、地域の事業支援のあり方を確立していく予定である。（PF 自身が個別具体的なプロジェクトに取り組むことは想定していない。）
- PF/コンソーシアムの名称も、今後、PF 内で検討していきたい。
- 市内には多々の地域づくりのプレイヤー、コーディネーターが、それぞれに取組を展開してきており（株式会社御嶺川/まちづくり公社、地域おこし協力隊、地域協議会 など）、そういった主体への後押しも PF で行っていきたい。

【課題】

- メンバー同士は既に気心知れた関係で、今後もディスカッションを積み重ねていくことに問題はない。
- 一方で、地域の中や、市民の中には SDGs 等に対する意識の差があり、PF がいかにか厚い支援メニューを準備できたとしても、地域のプレイヤーに受け入れてもらえるかどうかについては懸念があり、普及啓発等の対応も必要である。

Q2 地域循環共生圏を実現された地域の姿について、イメージできている範囲でビジョンを詳しく。（今年度、10年後など短期と長期スパンで）

※ 地域のビジョンについては、PF のメンバー全体で今後、議論すべきと考えているとのことであったが（※本ヒアリングが PF/コンソとして集まる初会合の場となった）、応募申請時点（実施計画書ベース）で、のと共生信用金庫が考えていた共生圏実現後の地域ビジョンを説明いただいた。

- 地域循環共生圏が実現するまでの範囲を七尾市以外の地域にも横展開し、共生エリアを複数エリア（七尾市を含めた能登半島エリア）全体に波及させたいと考えている。
- 地域課題については、課題解決に取り組むことによって、地域・市民・事業者、里山里海が潤っていくというイメージが地域の中に定着し、地域の有機的なネットワークが長期的な地域発展である認識される将来を思い描いている。真の豊かさである。

った地域課題をビジネスへ、認識の転換を図ってきたい。

- 地域課題解決のマネタイズとなる事業の創出支援・伴走支援を行い、地域内の経済循環が生まれ出されていく将来ビジョンを描いている。

Q3 上記の実現に向けて、今年度どこから取り掛かり、何までこまでやるか（事業のタネのアイデア）

- 今年度はまず、PF の準備会を実施し、メンバー（関係組織）間の考え方をしっかりと共有し、【協議会】を設立したい。
- 今年度実施する事業については、実施計画書に記載した通りであるが、一部、スケジュールのずれ込み等があるため、調整を行ってきたい。
- 今後、SDGs の事業支援、教育支援等に取り組むうえで、どこから取り組むべきか、何に重点を置くべきかを検討していくためのエビデンスが必要とされている。そのため現在、SDGs に対する市民意識調査の実施について市側に相談しているところである。もし調査を実施できた場合には、PF 関係者にとって役立つデータの抽出につなげられる設置設計等を行ってきたいと考えている。

Q4 事業を進める上での資源や痛み

※事業は、環境課題を解決する持続可能な取組であり、ビジネスや公益性のあるもの両方を含む。

- 七尾市の最大の地域資源は、能登の里山里海である。自然、社会、文化など、人々の生活様式そのものが里山里海である。そのほか、モノとしての資源には伝統工芸、祭り、史跡などが多岐にある。そしてこれらの資源を守り、つないでいる地域の人々が地域の最終的な資源である。
- この事業の終了時、及びローカル SDGs の取組を進めていった先では、地域の事業者数が増え、SDGs プロジェクトが地域の中で多発していく、SDGs をテーマにした授業を実施する学校が増えていくことを期待している。そのための支援にこの PF が取り組んでいく必要があると考えている。
- PF/コンソとして、事業者が SDGs を推進しにくい環境整備、支援体制を整える必要があると考えている。

Q5 事業を進める上での課題とそれを解決するための方法

- 地域づくりのプレイヤーはたくさんいるが、それぞれにバラバラで取り組んでいる。そのため、彼らが一気に集い、誰が何に取り組んでいるか共有し、見える化し、連携や無駄がないようマッチング、コーディネートすることが、各プレイヤーや事業者の子弟、経営資源の面においても重要となっている。
- 今後、そうした地域課題解決事業の支援を行っていく中で、PF の資金源の確保が

重要になっていくと考えている。

- 環境や EPO に期待する事項については、事業者等へのシステムの提供や、地域通貨の発注実験・導入等に係るインフラ面の整備における資金確保に取り組むにあたり、助成制度の紹介や、事業申請の支援等を期待したい。

Q6 事業を進めるにあたって協力者となるステークホルダーはいるか、または想定できているか。

- プラットフォームのメンバーとしては、本日のヒアリング同席者スタートとなる。事務局側はのと共生信用金庫が担う。
- まずは、現メンバーの既存の取組（支援システム）を持ち寄り、相互にサポートし合うための体制づくりについて検討を行ってきたい。
- 今後のステークホルダーの総がりとして、「能登北西工会」（商工会議所と併存/なお創業支援カレッジ）；七尾商工会議所、のと共生信用金庫、日本政策金融公庫、七尾市は、なお創業支援業務連携・協力に関する協定書締結について連携済みにも参加をお願いしていく予定である。

Q7 その他

- 特になし

ヒアリング結果についての所感と懸念（事務局・EPO 記入欄）

活動団体と事務局/EPO の信頼関係を築いて進めていく上での所感

- PF として取り組もうとしていることを改めて確認し、深掘りしていく必要があると感じた。
- 同時に、PF メンバー（組織）それぞれの考えも確認、もしくは提示・共有してもらった必要があると考えている。

活動団体が現時点で描いている地域プラットフォーム像や地域循環共生圏実現後のイメージに関する所感<Q1 と Q2 に対応>

- 地域内では、事業支援プログラムがそれぞれの組織によって既に多岐に展開されており、これらの整理、連携・共有等を可能にするためのシステム（場、体制、仕掛け）づくりには PF は取り組もうとしており、PF 自身が具体的な事業（ビジネス）等を展開することは想定していないと発言していた。

- 地域振興PFを構築する事業となるため、事業内容が分散する懸念を感じた。このため、地域循環共生圏実現後のイメージは、事業ごとに具体的な事業イメージを持ちつつ、それを支える仕組みづくりが必要と考える。
- 特に、地域通貨に関しては、開始・導入・運用の各段階における各メンバー間の役割分担を明確にする必要があると考える。
- 関係者の調整を事務局がしっかりと行い、計画的に進めることができれば、それほど問題なくシステムとしての形づくり可能なだろうという印象をうけた。

共生圏実現のための地域の現状把握（地域資源や強みと地域課題の把握、課題解決の方策など）と活動団体が検討している「事業」に関する所感＜Q3とQ4とQ5に対応＞

- ヒアリングでは、主に地域課題解決ビジネスの事業性・取組の増加による地域経済活性化について焦点を当てた話をされており、地域づくりの延長の小規模事業者への支援の展開が取組の中心になるという印象をうけた。
- 「事業のタネ」はある意味、既存で多々のネタを持っていると言えるが、PFの「成功事例」として第三者に提示、或いはメンバー・関係者間で「成功体験」として共有するネタとしては弱いように感じた。これをPF事業としての「事業のタネ」とするかについては、PF側と協議・確認していきたい。
- 今回は時間が限られた中でヒアリングであり、今後継続して接触していく中で、PFの方向性などを確認していきたい。

活動団体が想定しているステークホルダーに関する所感＜Q6に対応＞

- 七尾市内には多くの有名な地域づくりのプレイヤー、コーディネーターがいる上、彼らの事業、及び支援の取組も多岐にある。
- PFメンバーとして商工会議所、青年会議所、金沢大学、市が揃っており心強いが、講師／学識者待遇のプレイヤーたちが本事業やPFに対してどのように反応するか、或いはPFのいう「画策案」について、今後、詳細確認・状況確認を行ってきたい。
- 七尾市の関心が強くなっており、庁内の調整状況の確認が必要と考える。

(2) 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務

- 活動団体（2団体）の意見交換会の企画立案について提案、協議等を重ね、次表の通り、意見交換会を実施した。
- また、会合の中で抽出された意見等を整理し、各団体に提示した。

PF 採択団体	実施日・場所	実施内容
【新規】PF のと のと共栄信用金庫 (なお SDGs プラットフォーム)	9月29日 石川県七尾市	プラットフォーム設立に対する期待・課題の共有ディスカッション
【継続】PF 郡上 郡上市地域共生圏協議会 (郡上市アウトドア事業者協議会)	11月10日 岐阜県郡上市	郡上市アウトドア事業者協議会、郡上市をまじえて、郡上のアウトドア観光の将来の“スガタ”“カタチ”についてディスカッション

ア PF のとの意見交換会

①日時

- 2021年9月29日（水）15:30～17:00

②主催

- のと共栄信用金庫

③開催場所・方法

- 会場：七尾商工会議所大ホール + ハイブリッド設置



④出席者

所 属	名 前	参加方法
七尾市役所企画財政課	亀山	リアル
金沢大学 教授	松島	オンライン
能登鹿北商工会 課長	澤井	オンライン
のと共栄信用金庫 部長	小石	リアル
のと共栄信用金庫 副部長	北村	オンライン
のと共栄信用金庫 部長代理	浜田	リアル
のと共栄信用金庫 アドバイザー	中里	オンライン
日本政策金融金庫 所長	棚橋	オンライン
日本政策金融金庫	山田	オンライン
中小企業基盤整備機構	氏家	オンライン
東京海上日動火災保険株式会社 課長	星野	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 理事長	山口	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 専務	平石	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 次年度理事長	森山	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 次年度専務	金松	リアル
七尾商工会議所 専務	小川	リアル
七尾商工会議所 事務局長	山田	リアル
七尾商工会議所 アドバイザー	中村	リアル
七尾商工会議所 SDGs プロジェクト推進室	入口	リアル
七尾商工会議所 SDGs プロジェクト推進室	小山	オンライン

イ PF 郡上の意見交換会

①日時

- 2021年 11月10日(水) 13:30~17:30

②主催

- 郡上市地域共生圏協議会

③開催場所・方法

- 会場：HUB GUJO +ハイブリッド設営



④出席者

《会場参加》

所 属	氏 名
PF 郡上 郡上市地域共生圏協議会	小森 胤樹
PF 郡上 中部スノーアライアンス株式会社取締役 支配人	堀江 政志
PF 郡上 郡上市観光連盟職員	安藤 祐二
PF 郡上 有限会社イトアンドライブ社員	石田 巖根
PF 郡上 有限会社イトアンドライブ取締役	水口 晶
郡上市 市長公室政策推進課 課長補佐	三島 宏治
郡上市 市長公室政策推進課 地域戦略推進係長	岩井 彩乃
中部地方環境事務所 環境対策課 廃棄物対策等調査官	溝手 康人

所 属	氏 名
環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	清本 三郎
環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	原 理史
環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	富田 夏子

《オンライン参加》

所 属	氏 名
環境省 大臣官房環境計画課 企画調査室長	佐々木 真二郎
環境省 大臣官房環境計画課	北森 愛子
財務省 東海財務局岐阜財務事務所 財務課長	服田 直子
財務省 東海財務局岐阜財務事務所理財課 主任調査官	日比野 圭介
財務省 東海財務局岐阜財務事務所総務課 企画係長	木矢村 匡
PF 郡上 株式会社アール・エ北陸	藤森 純子
全国事務局 地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)	高瀬 裕子

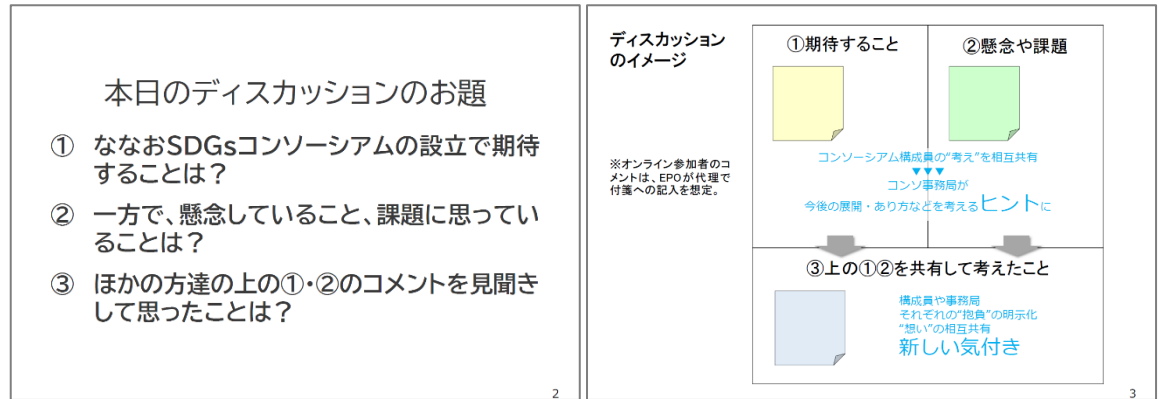
ウ 全国事務局に提出した意見交換会開催結果報告

①PF のとの開催結果報告

意見交換会開催前の課題把握	
<p>①協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プラットフォームの前身となる既存のコンソーシアムがあったため、内部の協力関係・体制は構築できている。 ● 公的組織が集まったコンソーシアムであり、会合等が定期的に行われており、会合の議事は、事務局案を(事前の根回し、確認を行った上で)各構成員に承認してもらう形式となっている。ほぼ諮問であり、どこまで「共有」がなされているかは不明である。 ● コンソの事務局(EPO が見る限り実質担当者1名)の体制が現状のまま取組等を進めていくことにも懸念がある。 <p>②ありがたい未来</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 採択時から事務局ベースで作成した「地域版マンダラ」のチャート図(関係組織・取組の将来的な相関図)が採択後早々に作成されている。 ● コンソ構成員にも共有し、微修正を重ねつつも合意が取れた状態になっているが、上の「①協働」の項と同じく、どこまで各員の認識を深められているかについては懸念がある。 <p>③事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンソの各メンバーが実施する既存の取組(地域課題解決ビジネスの支援、創業支援など)をもとに、コンソとしての地域ビジネス支援に取り組む予定である。また、新コンソ設立に併せ、コンソ主催事業として、SDGs 市民大学を開講するなど新たな人材育成事業も展開する。 ● そのほかのコンソ設立以後の展開については、今後、コンソ内での検討・協議が必要となっている。 	
意見交換会の狙い(環境整備支援をする EPO・地方環境事務所としての狙い)	
<ul style="list-style-type: none"> ● コンソの設立や、その組織・事務局体制に対するコンソ構成員各々の本音、問題意識等を表出させたいと考えている。 	
意見交換会の実施内容	
開催日: 2021 年 9 月 29 日	開催場所: 七尾商工会議所(一部参加者は zoom で参加)
参加者: コンソーシアム構成員 20 名	
意見交換会の目的	

- プラットフォームとして産官学+金の9団体で構成されるコンソーシアム「ななお SDGs スイッチ」の設立(10月16日設立式)を前にした9月29日に意見交換会を開催することになった。
- 開催にあたっては、構成9団体がコンソ設立や今後の取組に対し、どのような「期待」を抱いているか、どのような「懸念・課題」を感じているかを意見交換会の場で明示していただき、相互に共有することを会合の目的として示した。
- コンソ設立に向けて関係者の連帯感・期待感をより高めるよう、意見交換会では全員に発意してもらい、参加者及び事務局に、場の中で意見・意向が共有される状態を実感してもらうことも目指した。

意見交換会実施内容の概要



ディスカッションの進め方

i 意見交換会とその進め方などの説明 5分

ii 《お題①》期待すること、《お題②》懸念・課題を付箋に書いて模造紙に貼り付けてください。
書き込み5分+発表20分

iii ほかの人の《お題①②》のコメントを見聞きしながら、考えたこと《お題③》を付箋に書きこんでください。

iv 《お題③》を書き込んだ付箋を模造紙に貼り付けて、内容を発表してください。
発表20分

できるだけ、付箋への記入は短く、
■ 箇条書き
■ キーワード などの記入をお願いします。
長文記入をご希望の方は、別の「大型付箋」をぜひご使用ください。

意見交換会を通して得られた成果

- 参加者(コンソ構成員)全員に、各議題に対する考えを発言していただき、新しく設立されるコンソーシアムの組織体制(特に事務局のあり方)に複数名が懸念を感じていることや、取組を進めていく先で直面するであろう課題・問題点などの指摘もあった。
- ここで提示された意見、課題や懸念材料は、今後の事業展開のアイデア及び留意事項、体制づくりに向けたヒントになり得るものであり、後日、意見交換会のコメント集を事務局に提供した。

議題①の結果：コンソーシアム設立に期待すること

■ 地域への影響

- 七尾がSDGs先進地になる
- 持続可能な七尾、中能登の実現
- 何かに取り組むことで、より良い機運が高まり、広がること
- 地域ビジョンとして活用
- 唯一無二の地方都市の姿がみつかる
- ふるさと愛(Uターン)
- 波及一若年層幅広の世代

■ 事業者への影響

- ゼブラ企業の創出
- 企業イメージの向上
- 企業の生存につながるのでは
- 経営へのSDGs導入
- (外資を稼ぐ)起業家

■ ステークホルダーとの関係構築・関係強化

- 連携と推進
- 産学官金の連携
- 連携と相乗効果
- 交流の場(異業種・年齢)
- 地域全体での連携！！

■ SDGsの普及、SDGsが活かされる展開

- SDGsの普通化
- SDGsの広がり市民大学
- 見本になる、自分以外を考慮することができる
- 一人でも多くの人がSDGsに関心をもち行動に移す
- SDGsで連携、SDGsビジネスにもつながる
- (自分を含め)市民のみならずSDGsへ理解を深めてもらう
- ビジョンにチャレンジしよう

議題②の結果：コンソーシアムへの懸念や課題に思っていること

■ コンソの組織体制(事務局)／取組が進められていった先での懸念

- コンソが進めばやることが広がり、細かくなった時の体制に不安(マンパワー)
- 入口さんの体(コンソの組織)
- (参画団体多い)形態化
- 息切れ
- フリーライダーにならない

■ 今後の取組の具体化・役割分担等

- 事業の具体化
- 実行の具体化
- 取組の役割分担
- 役割分担
- 目標設定と評価
- 成果のみ見える化

■ 市民・事業者の理解、普及啓発のあり方




- 市民への浸透
- 市民目線、理解
- 一部の人の話と思われること
- 中小企業、小規模事業者が取り組めるか。“知識”“コスト”
- 伝え方と理解
- PR方法・伝え方
- 全ての人に共感されるようになるのか

■ SDGsの本質を捉えた展開の可否

- 一部の組織人間たちだけの取組になってほしくない
- ISOと同じで消えていくのでは「トレンド」
- 取組みの範囲が大きすぎて、ボヤけるのでは…。なんでもSDGs…
- 何に取組めば良いのか？本業にSDGsを取り入れた？
- (ユーザーにとって)実利が…。
- 環境をこわして発展した経済が、簡単に環境をよくして経済を活性化

議題③の結果：本日の共有ディスカッションによる気付き

<ul style="list-style-type: none"> ■この組織の体制、取組のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ●市を中心とした組織、他の組織から人を集める。 ●各主体のプログラム ●体制の具体化が重要 ●ねばり強く継続していくには？「組織」 ●エコシステムとしての機能 ●コンソーシアムKGI+PDCAの仕組み ●創業支援計画の話(団体)主幹メンバー3〜4にする？ ●次はリアル会合を！ ■目標設定の重要性 <ul style="list-style-type: none"> ●明確なゴール・期日の設定、定期的な情報共有 ●ゴール設定支援、同じ目的目標を持つ仲間との交流機会 ●ゴール設定支援、自社にとって重要なゴール、自社が貢献できる ●ゴール設定しかにムズい、共感 ■まずはここからはじめたい <ul style="list-style-type: none"> ●まずは1件SDGsの具体的な取組を自分で私たちが支援したい ●成功例を意図的に作る ●まず自分から！説得力ある、共感 ●子供を発信源に 	<ul style="list-style-type: none"> ■SDGsの我がごと化、一人ひとりへの浸透の重要性 <ul style="list-style-type: none"> ●一人一人の意識と共有、ジブント ●対話 × 分断 自分ごと化(バツキキャスト、指標化) ●SDGsの実戦で何が実現できるか、一人一人が理解できないといけない ●他の人たちにどう伝えるかを考える ■このコンソーシアム、このメンバーだからこそ <ul style="list-style-type: none"> ●いい組織だと思ふG17そのもの ●みなさんの熱量を感じた。しっかり学び役割をはたしたい ●こんなにステキな方々が熱意あるこの場に集まり、経験・ノウハウ、できることを出し合って前に進めることのキセキ。これは当たり前なことではない。他地域ではおそらくこんなざっくばらんにできる場はない。
--	---

意見交換会を開催して感じた課題と改善方法

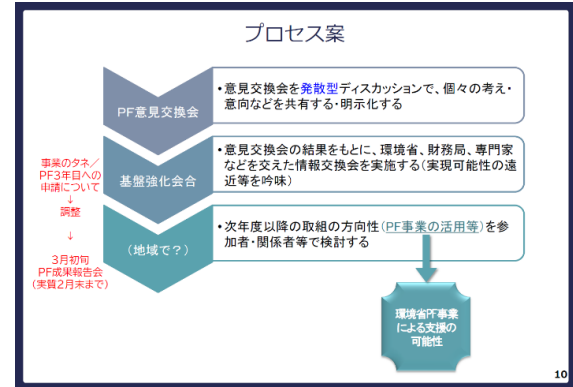
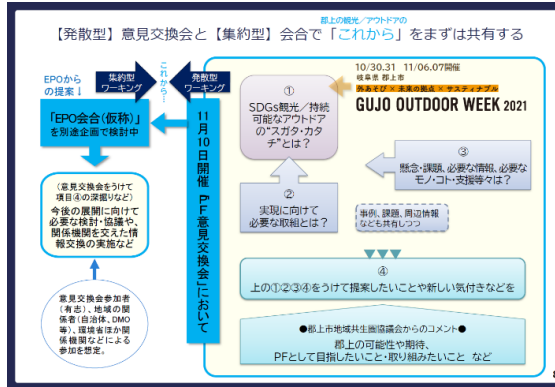
- 【課題】**
- 「意見交換会」は、団体側にまず実施の必要性を認識してもらう必要があり、その前段部分が難しい。なぜ実施するかについて説明等を重ねるようにしているが、具体的に開催に向けた調整を進める段に入ると、再度必要性を問われ、EPOも再度の説明を繰り返すというパターンが多い。
 - 特に、PF なのように、ワークショップ形式のディスカッションの経験・機会があまりなかった団体では抵抗感を抱かれることが多いように見受けられる。
- 【改善方法】**
- 改善策ではないが、実際に「意見交換会」を実施(体験)すると、その意義を理解・実感していただけることも多い。そのため、採択された直後及び初接触以降は、都度、「意見交換会」について説明し、地道に団体側と調整・交渉を行うこととしている。
 - ディスカッションによる意見・情報が共有された感覚や、外部者の視点が入ることによって得られる新たな気付きもあることなどを団体側に実体験していただくことが、意見交換会実施の意義の一つになるものと捉え、開催後には特に事務局に、意見交換会を実施した印象、実施結果の感想などを確認するようにしている。

②PF 郡上の開催結果報告

- 意見交換会開催前の課題把握**
- ①協働**
- 昨年度の PF 事業を経て、団体側と協力・連携して地域循環共生圏づくりに取り組もうとする主体や、団体に新たに構成員として加わる個人などは現れないまま一年目の事業は終了した。
 - 今年度に入り、郡上市アウトドア事業者協議会(DMO 郡上市観光連盟内設置)の中心人物が団体に加わり、今後、連携・協力して地域循環共生圏づくりに取り組むことになった。
 - しかし、その方向性や具体的取組などは全くの未定であり、改めて検討を要する状態にある。
- ②ありがたい未来**
- 昨年度作成の地域版マンダラを基に、市の主要産業である観光(アウトドア)を軸にし、観光での再エネ活用やEV交通導入などを盛り込んだ新しい「なりたい地域の未来像」を作成し、11月5-6日に開催された郡上市アウトドア事業者協議会主催「GUJO OUTDOOR WEEK2021」で展示を行った。
 - 絵(図)としてはまとまったものになっているが、地域循環共生圏の図としての第三者に説明することが難しい図になっている点が懸念される。
- ③事業**
- アウトドア事業者(個々の事業者／一部の事業者)が取り組みたいことは明確となっているが、地域としてどのように取り組むか、どこから取り組むかなどは曖昧であり、それを先導・コーディネートする人材もいない状況となっている。

意見交換会の狙い(環境整備支援をするEPO・地方環境事務所としての狙い)

- 団体、アウトドア事業者協議会との協議を重ね、今後の方向性や具体的取組などについて「①PF意見交換会」、「②EPO主催PS基盤強化会合」の活用による二段階で議論等する展開を図ることになった。
- ①PF意見交換会では、今後の方向性や必要な取組などについて発散型のディスカッションを行い、そこで抽出された内容をもとに②EPO会合で、岐阜財務事務所をはじめとする関係機関等を交えた会合を実施し、次年度PF事業の事業化支援なども念頭におき、今後どのように展開すべきかを具体的に地域側に検討してもらい展開を想定している。



意見交換会の実施内容

開催日:2021年11月10日 開催場所:HUB GUJO(一部の参加者はWebexで参加)

参加者:郡上市地域共生圏協議会、郡上市アウトドア事業者協議会、郡上市などから計18名

意見交換会の目的

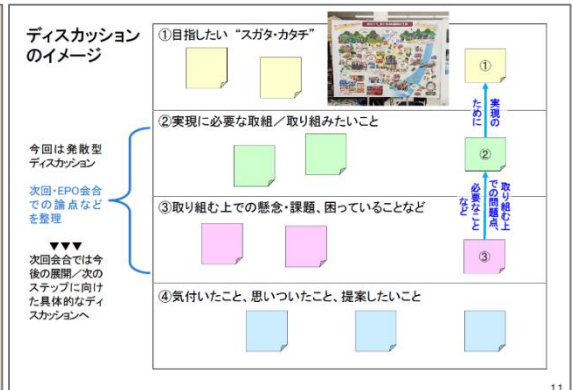
- 参加者であるアウトドア事業者、観光連盟、市(政策推進課)などを交えて、郡上で「何をを目指したいか」「何に取り組みたいか」「取り組むための課題や不安」などを明示してもらうこと、さらにそれを互いに共有することを目的とするワークショップ方式のディスカッションを実施した。



意見交換会実施内容の概要

本日のディスカッションのお題
～GUJO OUTDOOR WEEK 2021を終えて～

- ① 私たちが目指したい・実現したい、郡上のSDGs観光のスガタ、持続可能なアウトドアのカタチとは?
- ② スガタ・カタチづくりに向けて取り組んでみたいこと/必要な取組とは?
- ③ 上の①②で不安・懸念・課題に思っていることとは?
➢ 取り組む上での懸念/困っていること・わからないこと、知りたい情報、必要に思っているモノ・コト・支援等々
- ④ 上の①～③を共有したことで気付いたこと、思いついたこと、提案したいこと



意見交換会を通して得られた成果

- アウトドアイベント「GUJO OUTDOOR WEEK2021」(コンセプトは「100年先も郡上に遊べる川と雪山を残す為に。」)を終えて、イベント参加者・関係者等からの反応や、イベント主催したアウトドア事業者自身がどのような考えを持つようになっているかなどを共有した。
- 参加者(関係者)それぞれが考えていること・やりたいこと、不安などを明示してもらい、各々が多種多様な方向性・意向、課題・不安等を感じていることが明確になった。

<p>11月10日開催・PF郡上 意見交換会の付箋コメント 1/4</p> <table border="1"> <tr> <td>①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？</td> <td>● 観光客、ツアー参加者への啓蒙 ● 取り組みへの認知度向上 ● おもいきりモデル事業や自治体としての政策実施</td> <td>● CO2を排出しない仕組み ● 地域循環車の高い消費の在り方 ● 地域資源の持続可能な利用</td> <td>● 自然環境への配慮・感謝する気持ち・意識</td> </tr> <tr> <td>②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？</td> <td>● 観光客全員に無料ポトル配布 ● EVカーのシェア、レンタルー観光用光</td> <td>● 地域間の再エネを利用して ● 地域循環車の推進 ● 森林からのJクレジットの利用</td> <td>● 新しい知識をもった取組み 発信 啓蒙 個人</td> </tr> <tr> <td>③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど</td> <td>● 再エネ利用の価値が伝わりにくい ● ムーブメントを作る為のコスト ● 全て収益性のある事業に昇華 ● 再エネ導入の為の初期費用、再エネ供給 ● EVバス導入費用、収益性 ● 企業を巻き込む民間人材登用</td> <td>● 意識の醸成 ● 危機感の共有</td> <td>● 数値化→具体的な目標 ● 興味 危機感</td> </tr> <tr> <td>④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと</td> <td>● KVC観音寺を観光の玄関口 ● エネルギー拠点、SDGs拠点 ● 郡上市、中部電力、民間出資による地域新電力の構築 ● DIMO中心に電力ハンドリング収益を運営者と市内サービスに転換 ● スキー場を含めた再エネ利用促進、域外電力利用を促進し収益性UP</td> <td>● バックキャストシステム思考 ● 地域活性化 起業人(地域おこし企業人) ● 脱炭素×防災 ● マブリティという位置情報アプリ</td> <td>● プログラム化 ● 動き出す</td> </tr> </table>	①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 観光客、ツアー参加者への啓蒙 ● 取り組みへの認知度向上 ● おもいきりモデル事業や自治体としての政策実施	● CO2を排出しない仕組み ● 地域循環車の高い消費の在り方 ● 地域資源の持続可能な利用	● 自然環境への配慮・感謝する気持ち・意識	②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？	● 観光客全員に無料ポトル配布 ● EVカーのシェア、レンタルー観光用光	● 地域間の再エネを利用して ● 地域循環車の推進 ● 森林からのJクレジットの利用	● 新しい知識をもった取組み 発信 啓蒙 個人	③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど	● 再エネ利用の価値が伝わりにくい ● ムーブメントを作る為のコスト ● 全て収益性のある事業に昇華 ● 再エネ導入の為の初期費用、再エネ供給 ● EVバス導入費用、収益性 ● 企業を巻き込む民間人材登用	● 意識の醸成 ● 危機感の共有	● 数値化→具体的な目標 ● 興味 危機感	④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと	● KVC観音寺を観光の玄関口 ● エネルギー拠点、SDGs拠点 ● 郡上市、中部電力、民間出資による地域新電力の構築 ● DIMO中心に電力ハンドリング収益を運営者と市内サービスに転換 ● スキー場を含めた再エネ利用促進、域外電力利用を促進し収益性UP	● バックキャストシステム思考 ● 地域活性化 起業人(地域おこし企業人) ● 脱炭素×防災 ● マブリティという位置情報アプリ	● プログラム化 ● 動き出す	<p>付箋コメント 2/4</p> <table border="1"> <tr> <td>①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？</td> <td>● 交通手段の変化・代替 ● エネルギー自給型リゾート ● 資源を守る 意識の醸成</td> <td>● スキー場電力の全てを再エネ電力に ● 郡上市内での自給自足型リゾートの確立 ● スタッフ、お客様の意識改革</td> <td>● 電動車の普及(市民) ● 電動シャトルバスの導入</td> </tr> <tr> <td>②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？</td> <td>● EVの運行 公共交通促進 ● イトシロモデルの展開</td> <td>● グレンデの斜面を活かした水力発電 ● 照明LED化 ● EVバスの普及 ● 太陽光エリア全体 ● 100万人への意識改革</td> <td>● 電動車両レンタル、シェアと使い方を提案 ● キャンプ場やスキー場の道路整備(楽しむ人が増える嬉しい悩み)</td> </tr> <tr> <td>③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど</td> <td>● 人的リソース 人材確保 ● コストの戦い たかい理想と現実 ● 広さ→平等さ？</td> <td>● お金 ● 仕組み ● 組織・人材</td> <td>● アウトドアを楽しむ人のモラルを守ってもらう取組 ● 公共交通の充実 ● 市の活性化の一つとして移住希望者の受け入れ ● 郡上産の商品を購入した観光客へのポイント付与 ● 環境保全は困りごとも解決</td> </tr> <tr> <td>④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと</td> <td>● やっばり人が大切 ● ゴールを明確に 客観的に</td> <td>● 体験イベント</td> <td></td> </tr> </table>	①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 交通手段の変化・代替 ● エネルギー自給型リゾート ● 資源を守る 意識の醸成	● スキー場電力の全てを再エネ電力に ● 郡上市内での自給自足型リゾートの確立 ● スタッフ、お客様の意識改革	● 電動車の普及(市民) ● 電動シャトルバスの導入	②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？	● EVの運行 公共交通促進 ● イトシロモデルの展開	● グレンデの斜面を活かした水力発電 ● 照明LED化 ● EVバスの普及 ● 太陽光エリア全体 ● 100万人への意識改革	● 電動車両レンタル、シェアと使い方を提案 ● キャンプ場やスキー場の道路整備(楽しむ人が増える嬉しい悩み)	③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど	● 人的リソース 人材確保 ● コストの戦い たかい理想と現実 ● 広さ→平等さ？	● お金 ● 仕組み ● 組織・人材	● アウトドアを楽しむ人のモラルを守ってもらう取組 ● 公共交通の充実 ● 市の活性化の一つとして移住希望者の受け入れ ● 郡上産の商品を購入した観光客へのポイント付与 ● 環境保全は困りごとも解決	④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと	● やっばり人が大切 ● ゴールを明確に 客観的に	● 体験イベント	
①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 観光客、ツアー参加者への啓蒙 ● 取り組みへの認知度向上 ● おもいきりモデル事業や自治体としての政策実施	● CO2を排出しない仕組み ● 地域循環車の高い消費の在り方 ● 地域資源の持続可能な利用	● 自然環境への配慮・感謝する気持ち・意識																														
②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？	● 観光客全員に無料ポトル配布 ● EVカーのシェア、レンタルー観光用光	● 地域間の再エネを利用して ● 地域循環車の推進 ● 森林からのJクレジットの利用	● 新しい知識をもった取組み 発信 啓蒙 個人																														
③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど	● 再エネ利用の価値が伝わりにくい ● ムーブメントを作る為のコスト ● 全て収益性のある事業に昇華 ● 再エネ導入の為の初期費用、再エネ供給 ● EVバス導入費用、収益性 ● 企業を巻き込む民間人材登用	● 意識の醸成 ● 危機感の共有	● 数値化→具体的な目標 ● 興味 危機感																														
④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと	● KVC観音寺を観光の玄関口 ● エネルギー拠点、SDGs拠点 ● 郡上市、中部電力、民間出資による地域新電力の構築 ● DIMO中心に電力ハンドリング収益を運営者と市内サービスに転換 ● スキー場を含めた再エネ利用促進、域外電力利用を促進し収益性UP	● バックキャストシステム思考 ● 地域活性化 起業人(地域おこし企業人) ● 脱炭素×防災 ● マブリティという位置情報アプリ	● プログラム化 ● 動き出す																														
①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 交通手段の変化・代替 ● エネルギー自給型リゾート ● 資源を守る 意識の醸成	● スキー場電力の全てを再エネ電力に ● 郡上市内での自給自足型リゾートの確立 ● スタッフ、お客様の意識改革	● 電動車の普及(市民) ● 電動シャトルバスの導入																														
②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？	● EVの運行 公共交通促進 ● イトシロモデルの展開	● グレンデの斜面を活かした水力発電 ● 照明LED化 ● EVバスの普及 ● 太陽光エリア全体 ● 100万人への意識改革	● 電動車両レンタル、シェアと使い方を提案 ● キャンプ場やスキー場の道路整備(楽しむ人が増える嬉しい悩み)																														
③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど	● 人的リソース 人材確保 ● コストの戦い たかい理想と現実 ● 広さ→平等さ？	● お金 ● 仕組み ● 組織・人材	● アウトドアを楽しむ人のモラルを守ってもらう取組 ● 公共交通の充実 ● 市の活性化の一つとして移住希望者の受け入れ ● 郡上産の商品を購入した観光客へのポイント付与 ● 環境保全は困りごとも解決																														
④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと	● やっばり人が大切 ● ゴールを明確に 客観的に	● 体験イベント																															
<p>付箋コメント 3/4</p> <table border="1"> <tr> <td>①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？</td> <td>● 住む人も訪れる人も自然を消耗しない観光・体験 ● 様々な体験を提供できる人や仕組みがある</td> <td>● 今の郡上の持続 ● 今より更に充実したアウトドアフィールド ● ガイなどアウトドアでメシが食える</td> <td>● 自然体験型ESD (SD教育)入づく</td> </tr> <tr> <td>②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？</td> <td>● 持続可能なまち、地域(人口減少抑制) ● 何もなければ失われてしまう危機感 どう実感する？ ● ゼロカーボン実現するくらし、行動(電気 車や移動など)</td> <td>● 歴史、文化と同様にフィールドを守る ● ガイド養成 ● スノーマシンの再エネ化</td> <td>● 自然観察サイクリング(EVバイク) ● 歴史・文化・自然 EVバス観光 ● 地元食体験 ● 川の循環を学ぶラフティング(都市の水資源) ● (発見)定点観測スキーコース ● 人が行くのか ● 実容を揃えて帰ってもらう観光の価値 ● 魅力的コンテンツの作成 ● 学習的らづけ ● 違う価値を刷り込む SDGsカクコイ ● 人に伝えることで自分も学ぶ ● 指標の作り方(人数/SDGsへの貢献)</td> </tr> <tr> <td>③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど</td> <td>● 費用の負担 便益の代償 ● サービスを受けられる側の意識改革</td> <td>● 再エネ流通難しい ● 市域の広さ ● 熱意はあるが金がない... ● 人材不足</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと</td> <td>● やれそうなおこし(さんある、)それぞれ取組めることを明示する、段階的に ● 一緒に取り組む人が集まる仕組み(プラットフォーム)</td> <td>● 行政・民間の役割分担 ● 公用車のEV化 ● できることからやりはじめる ● RPA-AIで人材確保 ● 金の 質 外資・前派</td> <td></td> </tr> </table>	①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 住む人も訪れる人も自然を消耗しない観光・体験 ● 様々な体験を提供できる人や仕組みがある	● 今の郡上の持続 ● 今より更に充実したアウトドアフィールド ● ガイなどアウトドアでメシが食える	● 自然体験型ESD (SD教育)入づく	②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？	● 持続可能なまち、地域(人口減少抑制) ● 何もなければ失われてしまう危機感 どう実感する？ ● ゼロカーボン実現するくらし、行動(電気 車や移動など)	● 歴史、文化と同様にフィールドを守る ● ガイド養成 ● スノーマシンの再エネ化	● 自然観察サイクリング(EVバイク) ● 歴史・文化・自然 EVバス観光 ● 地元食体験 ● 川の循環を学ぶラフティング(都市の水資源) ● (発見)定点観測スキーコース ● 人が行くのか ● 実容を揃えて帰ってもらう観光の価値 ● 魅力的コンテンツの作成 ● 学習的らづけ ● 違う価値を刷り込む SDGsカクコイ ● 人に伝えることで自分も学ぶ ● 指標の作り方(人数/SDGsへの貢献)	③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど	● 費用の負担 便益の代償 ● サービスを受けられる側の意識改革	● 再エネ流通難しい ● 市域の広さ ● 熱意はあるが金がない... ● 人材不足		④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと	● やれそうなおこし(さんある、)それぞれ取組めることを明示する、段階的に ● 一緒に取り組む人が集まる仕組み(プラットフォーム)	● 行政・民間の役割分担 ● 公用車のEV化 ● できることからやりはじめる ● RPA-AIで人材確保 ● 金の 質 外資・前派		<p>付箋コメント 4/4</p> <table border="1"> <tr> <td>①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？</td> <td>● 他地域での事例の情報を提供が可 ● 環境・経済の両立の難しさ ● 既にあるのでは、「人材」がある、地域に魅力がある</td> <td>● SD→収益が重要であり、経済主体も変えた ● 議論も ● 郡上で学んで帰っていただき、リピーターになっていた ● 郡上を「SDGsテーマパーク」に</td> <td>● 収益性や資金の課題が大きい ● 常に体験=共感しても ● 多様な主体で連携し、それぞれの得意分野を活かす</td> <td>● 出ていくお客を減らすという考え方も ● スキー場は子連れの体験場 ● 木質バイオの熱利用は？ ● 夏冬の稼働のバランス(過剰雇用等)への考慮も</td> </tr> </table> 	①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 他地域での事例の情報を提供が可 ● 環境・経済の両立の難しさ ● 既にあるのでは、「人材」がある、地域に魅力がある	● SD→収益が重要であり、経済主体も変えた ● 議論も ● 郡上で学んで帰っていただき、リピーターになっていた ● 郡上を「SDGsテーマパーク」に	● 収益性や資金の課題が大きい ● 常に体験=共感しても ● 多様な主体で連携し、それぞれの得意分野を活かす	● 出ていくお客を減らすという考え方も ● スキー場は子連れの体験場 ● 木質バイオの熱利用は？ ● 夏冬の稼働のバランス(過剰雇用等)への考慮も											
①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 住む人も訪れる人も自然を消耗しない観光・体験 ● 様々な体験を提供できる人や仕組みがある	● 今の郡上の持続 ● 今より更に充実したアウトドアフィールド ● ガイなどアウトドアでメシが食える	● 自然体験型ESD (SD教育)入づく																														
②「スガタ・カタチ」実現に必要な取組/取り組んでみたいことは？	● 持続可能なまち、地域(人口減少抑制) ● 何もなければ失われてしまう危機感 どう実感する？ ● ゼロカーボン実現するくらし、行動(電気 車や移動など)	● 歴史、文化と同様にフィールドを守る ● ガイド養成 ● スノーマシンの再エネ化	● 自然観察サイクリング(EVバイク) ● 歴史・文化・自然 EVバス観光 ● 地元食体験 ● 川の循環を学ぶラフティング(都市の水資源) ● (発見)定点観測スキーコース ● 人が行くのか ● 実容を揃えて帰ってもらう観光の価値 ● 魅力的コンテンツの作成 ● 学習的らづけ ● 違う価値を刷り込む SDGsカクコイ ● 人に伝えることで自分も学ぶ ● 指標の作り方(人数/SDGsへの貢献)																														
③取り組むまでの懸念・課題、困っていることなど	● 費用の負担 便益の代償 ● サービスを受けられる側の意識改革	● 再エネ流通難しい ● 市域の広さ ● 熱意はあるが金がない... ● 人材不足																															
④気づいたこと、思っていたこと、提案したいこと	● やれそうなおこし(さんある、)それぞれ取組めることを明示する、段階的に ● 一緒に取り組む人が集まる仕組み(プラットフォーム)	● 行政・民間の役割分担 ● 公用車のEV化 ● できることからやりはじめる ● RPA-AIで人材確保 ● 金の 質 外資・前派																															
①目指したい郡上の観光/アウトドアの「スガタ・カタチ」とは？	● 他地域での事例の情報を提供が可 ● 環境・経済の両立の難しさ ● 既にあるのでは、「人材」がある、地域に魅力がある	● SD→収益が重要であり、経済主体も変えた ● 議論も ● 郡上で学んで帰っていただき、リピーターになっていた ● 郡上を「SDGsテーマパーク」に	● 収益性や資金の課題が大きい ● 常に体験=共感しても ● 多様な主体で連携し、それぞれの得意分野を活かす	● 出ていくお客を減らすという考え方も ● スキー場は子連れの体験場 ● 木質バイオの熱利用は？ ● 夏冬の稼働のバランス(過剰雇用等)への考慮も																													

意見交換会を開催して感じた課題と改善方法

【課題】

- コロナ対策や会場確保の関係などから会場に集まる人数を制限し、地域外参加者にはオンライン出席をお願いしたため、『多様な主体が集まったの意見交換』には至らなかった。
- それでもアウトドア事業者等から中広に意見が出てきた点は良かったが、一方で多種多様な意見(想いだけの段階の意見)をもとに、次の②EPO会合をどのように展開していくかについては、シナリオを再度練り直す必要があると感じた。

【改善方法】

- 岐阜財務事務所の方が、当初接触していた窓口担当者お一人だけでなく3名の方が参加し、会合中に示唆をいただけたことは心強かった。PF 郡上の取組に関心を寄せている感があり、②EPO 会合に向けた好材料と捉えている。
- また、②EPO 会合の開催方法や PF 事業としての今後の展開については、中部地方環境事務所と協議・確認を行う。(中部地方環境事務所との PF 事業打合せを 11/18 に実施; 下記参照。)